

特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター

## 第 23 回通常総会議案書【第二分冊】

開催日時 2023 年 5 月 20 日（土）10：30～12：00

開催会場 コープあいち生協生活文化会館 4 階会議室（名古屋市千種区稲舟通 1-39）

第 1 号議案「2022 年度事業報告と決算承認」の件のうち、事業計画別の詳細報告を、  
第 2 号議案「2023 年度事業計画と予算」の件のうち、事業計画別の目標を、報告します。

関連して、第 6 期研究奨励助成「中間報告」、および地域と協同の研究センター事務局員年報を参考資料として報告します。

## 【第一柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 三河地域懇談会

#### 1. 2022 年度の目標

今までの活動の積み重ねを大切に、①くらしと平和、②地域と地域の食文化（次世代へ伝え継ぎたい三河の伝統食）、③食と健康を軸にした協同の取り組み、④環境問題 ⑤粹な老い支度、⑥南海トラフ地震等の災害への備え ⑦難民食料支援・多文化共生をテーマに、学び交流する活動に取り組み、「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を開催します。地域を歩き、語り合い、協同・会員の輪を広げます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

世話人会を毎月開催し、三河地域懇談会の活動について検討・協議を行うとともに、世話人会としての学習に取り組んできました。毎回、世話人の近況報告を行い、情報交換もしました。協同組合のアイデンティティについては、昨年度の ICA 世界大会参加以来、大切なテーマとして学びと交流を続けています。また、コロナ禍でこの間実施できなかった三河を楽しく歩く活動（フィールドワーク）にも取り組むことができました。煮味噌研究会では、久々に調理・試食を行い盛り上がりました。

○世話人会で協議した内容は以下の通りです。

- ・ 2022 年度活動について
- ・ 総会・総会記念企画の振り返り
- ・ 食文化について
- ・ 防災について
- ・ くらしと平和・難民食料支援・多文化共生について
- ・ 粹な老い支度について
- ・ 「豊橋生協会館へ寄らまいかん」について
- ・ 東海交流フォーラムに向けて

○開催した学習会とフィールドワーク

- ・ 結カフェ（新城市八名地域）見学（7月13日）
- ・ 「地震いつもノート」学習会（7月26日）
- ・ のだ味噌見学・コープ岡崎北見学交流（10月18日）
- ・ 新城市軽トラ市見学（11月27日）
- ・ 煮味噌研究会（12月20日）
- ・ やなマルシェ見学（2月4日）
- ・ コープあいち小規模多機能ホーム「豊橋北」見学（2月22日）

○世話人会として参加した学びの場

- ・ 北海道自治体学会オンライン研究会（6月11日）
- ・ 難民食料支援学び語り合う会④（6月18日） ⑤（10月23日） ⑥（2月18日）
- ・ 2022 国際協同組合デー in 愛知（円卓会議）（7月6日）
- ・ 「持続可能なまちづくり in 飛騨」（7月30日）
- ・ アイデンティティセミナー（9月17日）
- ・ 生協総研全国研究集会（11月5日）

#### 3. 2023 年度の目標

2014 年度から「私たちのくらしと介護～地域で粹な老い支度を」をテーマに活動を続けて 10 年目を迎えます。今までの活動の積み重ねを大切に、よりいっそう粹な老い支度をすすめるために、①くらしと平和、②地域と地域の食文化（次世代へ伝え継ぎたい三河の伝統食）、③食と健康を軸にした協同の取り組み、④環境問題 ⑤南海トラフ地震等の災害への備え ⑥難民食料支援・多文化共生をテーマに、学び交流する活動に取り組み、「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を開催します。地域を歩き、語り合い、協同・会員の輪を広げます。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 岐阜地域懇談会

#### 1. 2022 年度の目標

中野方まちづくりについて、訪問を重ねて、学びます。また世話人会の活動の中で、自分が地域で何ができたのかを、また、何をしようとしているのかということについても、話す機会を作ります。そして、その活動に生協が関わられることを、探ります。山県市の最北端の過疎化が進む地域、北山に、地元出身の山口さんが U ターンし地域づくりを始めて 10 年が経とうとしています。その後の活動について交流を続けます。「ひなたぼっこ」斎藤さん「NPO 法人ポポロ」中川さんとの関係を続けます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

7 月 6 日 2022 年度第 1 回世話人会を開催しました。岐阜地域懇談会の今までの活動を振り返り、めざすものについて話し合いを行いました。岐阜地域懇談会が、コープぎふの事業のお役にたちたい、組合員の生協での利用を増やす・・・という方向ではないお役の立ち方を考えあっていきたい、ひなたぼっこで学んだ『心の声を聴く』活動の意味するものを知らせたい、研究(活動)の成果を、報告集としてまとめたい・・・という声が上がりました。9 月 20 日都会で「住民で暮らしを支える活動」をされている、八木山地区の清水さんに、コロナ禍、進化してきたささえあいの家の活動についてお話をいただきました。清水さんのお話は、自分の住む地域で、このようなささえあいの活動をどう進めたらよいのか改めて自分のこととして考えるきっかけになりました。

11 月 10 日、中野方「NPO 法人まめに暮らそまい会」訪問が出来ました。中野方町では、地域で出来ることは地域でしようと同会を中心に地域福祉に力を入れて取り組んでいます。住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただくために様々なサービスを行っています。

2 月東海交流フォーラムでは、「ささえあいの家」、中野方まめに暮らそまい会の報告をしました。まめに暮らそまい会紹介ビデオから伝わる住民同士の優しい助け合いの姿、コロナ禍「ささえあいの家」に集う住民の活動が地域の住民の生きる力になっていることが、会場のみなさんに、伝わりました。

「ひなたぼっこ」斎藤さん、「NPO 法人ポポロ」中川さんとの関係は、深めることが出来ませんでした。北山の山口さんからは、いろいろな情報提供を頂きました。

世話人会メンバーのそれぞれが、自分の住む地域をよくしようという取り組みをされていることが、話し合いの中で、交流することができました。自分の地域での、取り組みをすることで生まれた疑問・・・『なぜ、このように人は一生懸命に人のために活動できるのだろうか?』について、考えあうことが出来ました。この疑問に、フォーラムの発表の中で清水さんに答えて頂きました。この課題について、今後も深めていきたいと考えます。

このような地域懇談会の活動が、コープぎふの事業のお役に立つことに、結びつくことは簡単ではありません。そのため、地域懇談会の成果をまとめる冊子の発行は、22 年度ではできませんでした。世話人会メンバーの皆さんが、活動から何を学んだのかを、ひろく皆さんにお伝えする冊子の発行を 23 年に行いたいと考えています。

#### 3. 2023 年度の目標

中野方まちづくりについて、継続して学びます。世話人会メンバーの、農泊を行っておられる亀井さんから中野方の課題・めざすことについて考えあいます。「ささえあいの家」の清水さんの地域を訪問して、交流を深めます。コロナ禍、実現できなかった「ひなたぼっこ」職員集会に参加し、「心の声を聴く」活動を学びます。22 年にできなかった、報告書第 4 集の発行をめざします。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 三重地域懇談会（三重のつどい）

#### 1. 2022 年度の目標

多文化共生：人権尊重：一人一人が大切にされる社会づくりに一歩を踏み出せる市民が広がるように、学び合い知り合い、考え合う場を生活協同組合コープみえとともに作ってゆきます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

生活協同組合コープみえは方針に「多様な文化との共生」が加えられました。

三重地域懇談会は地域福祉の実践を行政・支援組織に学ぶことから、海外ルーツ住民の困難な生活とそれをささえる実践に触れ、三重県における多文化共生実践について学び、東海交流フォーラムで報告してきました。

研究センター理事の交代があった今年は、7月の世話人会で「2019年～2021年度の三重地域懇談会活度とその歩みを共有し、意見・情報交換しました。ウクライナ問題とコロナ危機、外国籍労働者や技能実習生問題、第18回東海交流フォーラムでの倉田氏（イロンゴ）の報告と自身の行動、等について意見交換。

多文化共生のテーマを引き続き掲げながらコープみえ方針・計画とのつながりづくりをすすめています。

また、世話人が住んでいる地域で実践されている事例を世話人会で共有しながら、多文化共生とも絡めて「誰もが安心して暮らし続けられる地域」を考えることとしました。

12月の世話人会では、みえ市民活動ボランティアセンター 新海センター長に参加いただき、人と人が支え合う関係について、参加者で実践している事や考えていることを交流し合い、同センターが三重県内の各行政区で実施・計画している、支え合いのつながりづくりを考え合う場について大切にしたいことやプログラムを学びました。

第19回東海交流フォーラムでは新海センター長より、「外国の人たちのくらす環境について理解を深めること」と「どのように向き合っていかななくてはならないでしょうか」の実践・問題提起をいただき、岐阜県、愛知県、三重県の会員で考え合う場としました。

その後の世話人会で、東海交流フォーラムの各報告で考えたことを交流し、世話人や元コープみえ理事が地域で行っている実践に学びたいという想いが浮かびあがりました。

#### 3. 2023 年度の目標

多文化共生＝人権・個人の尊厳が尊重されるつながりづくりは引き続きテーマに据え、身近な場で実践されているささえあい、つながりづくりを学びます。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 尾張地域懇談会

#### 1. 2022 年度の目標

○各地域懇談会のテーマにそって、会員活動をすすめます。地域懇談会の役割に関する検討を継続します。第 18 回東海交流フォーラムの成果を地域懇談会ごとの 2022 年計画に反映します。

#### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 尾張地域懇談会世話人会は、4 月・6 月・8 月・9 月・11 月・1 月・2 月・3 月に開催しました。

(2) 2021 年度実施した尾張地域会員アンケートをもとに、会員の関心の高い活動を訪問しました。  
・5 月 22 日(日)「NPO 名古屋難民支援室」(名古屋市中区)では、難民支援(法的支援と生活支援)、ウクライナ避難民支援の関わりを学びました。世話人会では、ウクライナ避難民やアフガニスタン難民支援の取り組みを交流し、市民や大学生の参加を広げる意義を話し合いました。

・9 月 4 日(日)「NPO エム・トゥ・エム」「さるなかとんな toto...」(瀬戸市菱野団地)を見学し、服部さん、弓谷さんから話を伺いました。新型コロナ下の SOS の声に応じて始まった「外国人食料支援」をきっかけに、多様な文化的背景を持つ住民が当事者として参加し、瀬戸市と協働で生活困窮者支援を進めていること、めいきん生協モーニングコープ(ワーカーズの立ち上げ)への関わり、地域と協同の研究センターへの期待など「行動する市民・考える市民」のまちづくりを学びました。

(3) 世話人会では、見学した感想を交流するとともに、金城学院大学の学生(朝倉先生ゼミ生)が「さるなかとんな toto...」に参加していることをうけて、第 19 回東海交流フォーラムの発表を準備し、東海交流フォーラムでは、金城学院大学朝倉ゼミ生・NPO 名古屋難民支援室から報告しました。ふりかえりの世話人会では、東海交流フォーラムのテーマ「協同が生まれる地域社会づくり」について、尾張地域の実践に照らして継続して深めていくことを話し合いました。

・2023 年 3 月 28 日にはその第一歩として、コープあいちくらしたすけあいの会(運営委員・コーディネーター)より活動状況をヒアリングしました。

#### 3. 2023 年度の目標

○「協同が生まれる地域社会づくり」を共通テーマとして、尾張地域の会員の訪問・調査を継続します。

○尾張地域懇談会(世話人会)とコープあいちなど団体会員との関わりをつよめます。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

# 研究フォーラム食と農

## 1. 2022 年度の目標

くらしと生産をつなぐものづくり 食と農について

異常気象、気候変動、新型コロナのパンデミックによって、世界的に生産から流通、物流が混乱しています。さらに、ロシアのウクライナ侵攻によって食料品、エネルギー、化学肥料のグローバルな流通網が停滞しています。また、極端な円安は、食料自給率 38%の日本を直撃しています。

日本が数十年ものあいだ見過ごしてきた生産から食料供給システムの構造的なリスクが露呈した格好になっています。

こうした危機的状況を私たちはどのように考え、解決の道筋をつけることは可能なのか、生産と消費、農と食をつなぐ、協同組合の役割を通して考えていきます。

## 2. 2022 年度の実践、および成果と課題

2 年間休止状態だった食と農世話人会を 2022 年 6 月 17 日(金)再開、第 2 回を 9 月 22 日(木)、第 3 回を 12 月 6 日(火)に開催することができました。

・9 月 22 日(木) 第 2 回研究フォーラム“食と農”世話人会を開催しました。

参加：飯村 初美、伊藤 佐記子、幸松 孝太郎、井貝 順子、大原 興太郎、妹尾 成幸、渡辺 勝弘  
熊崎 辰広、神田 すみれ、堤 英祐

出された意見⇒みどりの食料システム戦略、外国人の就農、耕作放棄地が増えている一方で市民農園を利用する人も、えがお食堂の実践から、中野方地区では地域で農業を残そうと取り組んでいる、食品の制度が大きく変化、有機の難しさ、再生産できる仕組みを、様々のものが限界に、消費行動の変容が鍵では

大原興太郎先生からの全体提起

- 1.耕作放棄地を回復させるのには自然農法を取り込んでもよいのでは
- 2.新自由主義的なあり方ではないオルタナティブなあり方の追求
- 3.地域と一体的な、自立自給的な方向への運動
- 4.メニューありきで無い材料ありきの食育
- 5.人生のあり方トータルの中でエコやエネルギーの節約を考えていく

・12-3 月の活動

12 月 6 日(火)に第 3 回研究フォーラム“食と農”世話人会を開催しました。

食と農のあり方を話し合い向かうべき方向性が見えてきました。

大原興太郎先生にその内容提言をまとめて頂き「地域と協同の研究センターNEWS220 号」(2022 年 12 月 25 日発行)巻頭言として寄稿頂きました。

## 3. 2023 年度の目標

2 月 18 日(土)にオアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市を訪問、村長の吉野隆子さんにご案内頂いて出店されている生産者のお話を伺うことができました。持続可能な農と食のあり方、地域の農業、地域のくらしとの連携、様々な課題を実践事例から学び、地域と協同の研究センターでの食と農の議論から解決への道筋を考え合います。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 研究フォーラム環境

#### 1. 2022 年度の目標

「食と農」「環境」「職員の仕事」はそれぞれ重要なテーマです。「第二の柱：組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信」とも関連を整理、2022 年度で再開を目指します。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

7月から世話人会を再開し、取り組み相談をすすめました。

フォーラム環境の対象は地球温暖化、マイクロプラスチック、気候変動、エネルギー問題など、私たちの身の回りで起こる問題であり、研究・勉強の対象を広く出し合い、その後 2022 年度で取り上げる領域を絞り込むこととしました。

<検討してきた対象>

- 土壌問題：土壌に関する研究者がいらっしゃる
- 再生可能エネルギーと農業：ソーラーシェアリングの実践を知る
- 市民が取り組む、環境に配慮した農業のあり方
  - \* コープあいちが取り組んでいる市民農園に関する構想と実践に学ぶ
  - \* 市民による新しい仕事づくりという観点も含めて
  - \* 障害のある人たちの仕事づくりとしても
- 海洋汚染問題（伊勢湾と私たちの暮らし）
  - \* 岐阜、愛知、三重の暮らしと伊勢湾

絞り込みを続けながら研究・勉強も並行して実施することとして、「市民が取り組む、環境に配慮した農業のあり方」について、(株)スリーシー（コープあいち関連組織）の近藤鉄次さんを中心に実行中の「コープあいち再雇用職員で進める循環型農業」を学ぶ場を開催（12月12日（月）、2023年2月7日（火））

これらの協議をふまえて、公開フォーラム「市民農園へのチャレンジから『循環型農業の可能性』を考える」開催について検討し、近藤氏の実践、資源循環にかかわってもらっている「オオブユニティ（愛知県大府市）」のバイオマス発電の成果と課題をお聞きして、環境側面から捉えた循環型農業の可能性を考え合う場を開催することにしました。

■開催日時 2023年4月26日（水）13：30～15：00

■開催会場 コープあいち生協生活文化会館4階会議室2

#### 3. 2023 年度の目標

公開フォーラムをステップに、環境に配慮した協同実践を学ぶ場づくりを引き続き検討しながら、世話人をひろげます。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

### 研究フォーラム職員の仕事

#### 1. 2022 年度の目標

「食と農」「環境」「職員の仕事」はそれぞれ重要なテーマです。「第二の柱：組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信」とも関連を整理、2022 年度で再開を目指します。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

新型コロナウイルス感染症問題前の 2019 年から研究・学習活動が止まっている領域です。

地域と協同の研究センター常任理事会にて第 5 期中期計画後半期の重点議論をすすめ、理事会でも協議をすすめている領域です。常任理事会では協同組合と職員・組織、協同組合運動にかかわる多様性の評価、地域懇談会で発見できた事例を通じた人づくり、等の視点・論点が出されています。

デジタル社会、AI・チャット GTP の広がり等を背景に生活協同組合の教育活動は難しい局面にあるでしょう。原理原則よりも、新型コロナウイルスによって問題が浮き彫りとなった目前の社会問題への対応に直面しています。生協創立の志やルーツを探ることよりも「今、未来への適応」が重要だという認識も生まれています。

しかし、だからこそ、「温故知新」であり「不易流行」であり、また「初心（原点）にかえる」ことが求められ、いかに難しくとも、更なる精進、一層の努力・決意が必要な時でもあります。

東海三生協の歩み（実践）や大事にしてきたこと（精神）を学び、「生活協同組合があってよかった」と未組合員も含めた東海三県民から思ってもらえる生協、職員の仕事について考え合う場が課題です。

#### 3. 2023 年度の目標

東海三生協（大学生協や商品供給事業委託会社スタッフ含む）が主体となり、研究センター主催で学びと気づきの 3 つの事業は、2023 年度も開催されます。

3 つの場を実施しながら、旧名古屋勤労市民（めいきん）生協が創設されて 55 年の歩み（実践）と大切にしたこと（精神）を軸に、目前の問題と将来の想定される問題を考え合う場づくりをすすめ、「職員の役割・仕事とは何か」を追求します。



## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

# 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同

## 1. 2022 年度の目標

2021 年度後半での、「ささえあいの家」の活動から何を学ぶかの、論点整理の論議がまだ十分にされていないことから、まずこの論点整理を行ったのち、その論点の中から見えてくる課題について、その課題を深めるために、新しい事例研究を検討します。

また、世話人会のメンバーが小人数で固定化しているので、新しく世話人の募集も同時に進めます。

## 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

昨年の総会終了後に新しく京都の上掛利博先生（専攻：社会政策・福祉経済）に世話人として参加していただき、論議に幅と深みが加わりました。事例研究としての各務原八木山地区「ささえあいの家」についての、一定の総括的な論議をふまえながら、あたらしく三重の「ガーデン大山田」を対象として、現地見学等を行い、瀬戸の MtoM の活動もふくめ、地域福祉と市民協同の視点で比較研究を進めたいと思います。

実際に 4 月 13 日に「ガーデン大山田」の現地に訪問し、社会的背景や活動を支える考え方などを学びました。また、例えば高齢化率を比べると、八木山の 41% に比べ、約 30% と同じような時期に開発が始まった住宅団地の違いの意味するものは何かなど、課題も生まれています。また大山田の団地内に UR 団地には多く外国人が住むということも、多文化共生ということの課題と、社会福祉協議会が主体となった多世代共生施設の存在も「ガーデン大山田」の活動を考えるうえで大切な要素になるようです。これらをさらに整理しながら、「ささえあいの家」の活動もふくめて、あらためて社会的、また地域福祉の観点から整理分析を進めたいと思います。

## 3. 2023 年度の目標

2 の成果と、課題もふまえながら、また 6 月 3, 4 日の協同組合学会の内容もまなびながら、あらためて愛知、岐阜、三重のそれぞれの活動（八木山の「ささえあいの家」、「ガーデン大山田」、瀬戸の「MtoM」）を比較しながら「プラットフォームとして、新しい人とのつながりや価値を創造(向井)」しつつ、学び得たことを公開研究フォーラムとか、またはブックレットのような報告書などで、広く社会に知らせることを目指します。

多文化共生に加えて多世代共生という課題は、「地域丸ごと共生社会」の大きな要素でもあり、この問題も、さらに地域福祉をささえる市民協同の対象となる可能性があります。

## 【第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり】

# 東海交流フォーラム

## 1. 2022 年度の目標

第 18 回東海交流フォーラムまとめ実行委員会の引継ぎを受けて、第 19 回実行委員会をはやめにたちあげ、引継ぎ事項を課題として準備をすすめます。

地域懇談会では引き続き地域の実践に着目し、地域とは？ 協同・つながりづくりとは？ ひとりひとりが行動するには？ 等、研究し続けましょう。

## 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

第 19 回東海交流フォーラムは 2023 年 2 月 11 日（土）、コープあいち生協生活文化会館（名古屋市千種区稲舟通 1-39）にて、第一の柱、地域懇談会と研究フォーラムの活動の成果として開催されました。参加人数は岐阜・愛知・三重の 4 会場とオンライン参加で約 80 名でした。

地域と協同の研究センターNEWS222 号（2023 年 2 月号）で概要を報告しました。

7 月、会場 12 名とオンライン参加 2 名で第 1 回実行委員会を開催。その後 9 月、12 月と実行委員会を開催して、開催当日の進行の工夫、大学生らの参加促進、自分が普段考えていることをみんなで考え合えるフォーラム等について協議を継続し、今年も会員主体の東海交流フォーラムとして開催できました。

### 第 19 回東海交流フォーラムのテーマ：「協同」が生まれる地域社会づくり～共同と協同、協働～

#### 共有し合った実践

##### ①三重地域懇談会報告

みえ市民活動ボランティアセンター 新海センター長より 外国の人たちのくらす環境について理解を深めること、どのように向き合っていかななくてはならないでしょうか

##### ②尾張地域懇談会報告

2021 秋アンケートから NPO 名古屋難民支援室、NPO エム・トゥ・エムを訪問。人の尊厳と理解し、ささえあえる場づくりはどうあるのがいいか？ 世話人と金城学院大学学生、名古屋難民支援室から報告

##### ③三河地域懇談会報告

コロナ問題化、今年はフィールドワークができました。煮味噌（料理・文化）研究と災害への備えの学び、新城市がすすめる「ささえあう場づくり（認知症カフェ等）」を紹介

##### ④岐阜地域懇談会報告

研究センターブックレットで紹介した各務原市八木山「ささえあいの家」を清水孝子さんから、昨年報告した中野方町地域協議会のその後の取り組みを世話人から紹介。共通する点と特徴はないか？

##### ⑤小グループでおしゃべりした後、全体で交流

2023 年 3 月、第 19 回東海交流フォーラムのまとめ実行委員会を開催。オンラインでは共有しきれなかった感想や気づきを交流。2023 年度（2024 年開催）を節目・20 回の記念回とする方向で検討してゆくことを確認しました。

## 3. 2023 年度の目標

2023 年 4 月、第 1 回実行委員会を開催して、7 月、9 月、12 月で開催準備をすすめます。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 生協の（未来の）あり方研究会

#### 1. 2022 年度の目標

年間の研究会日程を早めに決定し、予定執筆者の研究発表を検討しあい、第三次共著発行の準備をすすめます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

##### ①研究会

第三次共著は、第一次のシステム：未来を拓く協同の社会システム、第二次のデザイン：協同による社会デザイン、に続くものとして、組織論や新型コロナウイルス感染症問題下・同感染症との共存が実現した後の（生活）協同組合の存在価値・意義を論ずることを検討しています。

2022 年度は二回の研究会を開催し、第三次共著発刊準備を進めることとしました。

<二回の研究会日程>

①第 81 回研究会：2022 年 8 月 3 日（水）15：00～17：00

②第 82 回研究会：2023 年 2 月 24 日（金）15：00～17：00

<第 81 回研究会>

会場（コープあいち生協生活文化会館）とオンラインで開催。2022 年 2 月に続く研究会となり、近況（問題認識）交流と第三次共著発刊に向けた研究課題を交流しました。

労働者協同組合法施行と愛知県ネットワークで議論、全国生協組合員意識調査分析を通じた組合員意識の変化と希望、巨大 IT 企業の法規制が緩い問題、宅配（個人利用共同購入）と組合員活動、行政の買い物支援と生協の関与、今後拡大する単身世帯と生協、生協職員の役割・生協労働の価値、協同組合と平和、等について意見交換しました。

<第 82 回研究会>

朝倉美江氏（金城学院大学教授）、近藤充代氏（日本福祉大学元教授・現非常勤講師）、加賀美太記氏（阪南大学准教授）、兼子厚之氏（元研究センター理事）、向井 忍氏（研究センター専務理事）、妹尾成幸氏（コープみえ組織活動推進部部長）の参加で、第三次共著に込めたい問題認識を出し合い、意見交換。

2023 年度、研究会のすすめ方と第三次共著発行時期を確認しました。

##### ②第二次共著の普及

第 8 期協同の未来塾受講者必読書として、15 冊普及できました。

日程を置かずお届けできる研究センター在庫が 70 冊ありますので、引き続き普及をすすめます。

#### 3. 2023 年度の目標

2023 年度、3 回（①6 月下旬から 7 月上旬、②11 月中旬から下旬、③24 年 2 月中旬から下旬）の研究会を実施し、2024 年 4 月原稿入稿。2024 年 7 月の発刊を目指します。

【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

## 総会記念シンポジウムと公開セミナー

### 1. 2022 年度の目標

○総会記念シンポジウムは、「(生活) 協同組合・市民(組合員)の生活と意識の変化」を深めます。

○公開セミナーは 2030 年の暮らし・社会(巨大災害への備え含む)に関するテーマで開催します。

### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 5月21日第22回総会では、2021年度全国組合員意識調査に基づき記念企画《「組合員の暮らしの変化」から2030年新しい市民社会への課題を探る》を開催しました(内容は「鶏頭3号」に掲載)。

基調講演「家族とコミュニティの変化が意味するもの」近本聡子さん(愛知学泉大学・教授)、  
講演「自覚的消費者と生協組合員・持続可能な生産と消費にむけて」、近藤充代さん(日本福祉大学・非常勤講師)、会員報告(コープぎふ・コープみえ・コープあいち)。

・2030年への社会変化と生協の課題を深めるため、団体会員(三生協)より組合員の利用や活動、宅配事業(職員の仕事)の問題意識をヒアリングし、4回の「組合員意識・利用分析等に基づく公開研究会」を開催、各生協の理事・役職員・研究者・会員の参加で話し合いました。

第1回	暮らし(の変化)の特徴	2023年1月21日(土)	13~15時
第2回	事業(利用)と職員の仕事	2023年2月20日(月)	15~17時
第3回	組合員参加と地域での役割	2023年3月20日(月)	15~17時
第4回	2030年への生協の役割と課題	2023年4月1日(土)	13~15時

(2)「協同組合のアイデンティティ」を考えるセミナーを2回開催しました。第二回セミナーではICAでの協同組合のアイデンティティ検討状況(世界の会員アンケート結果)が紹介されました。

第一回公開セミナー：9月17日(土)

- I. 「協同組合らしさ」を考えるー「生協らしさ」を知り 学んでー(八木憲一郎さん)
- II. 世界の協同組合と「協同組合のアイデンティティ」とワークショップ(JCA 前田健喜さん)
- III. 「多文化」とつながる「協同組合」の魅力(「多文化社会と協同組合懇談会」から)

第二回公開セミナー 2023年3月4日(土)

「ICA アイデンティティ声明と日本の協同組合運動」(栗本昭さん JCA 特別研究員)

(3)「大規模自然災害に備える」公開セミナーは2021年9月(第一回)、2022年3月(第二回)に続き、12月10日に第三回を開催。2016年以降の豪雨・地震災害の具体的事例に関する全国16道府県17生協の聞き取り(中間報告)をもとに、大規模災害時の生協の役割を学びました。

開催趣旨：栗田暢之さん 本年度の災害をふまえて

報告1：宇野琢郎さん(NPO レスキューストックヤード・コープあいち)

「災害時の生協の役割」聞き取りの目的と概要

報告2：中谷隆秀さん(長野県生活協同組合連合会・事務局長)

「災害時の生協の役割」聞き取りから重要と思うこと、気づいたこと

～長野県での災害時ネットワークの経験にも照らして～

## 中間報告への質疑 各県（市）より報告・交流

（４）シリーズ「2030年をどう迎えるか」。2022年10月29日（日）に「第33次地方制度調査会」の審議内容をふまえ「住民によるまちづくり」勉強会を開催し、2023年3月19日に「第一回 国・自治体・住民の関係を考える」オンラインセミナーを開催しました。第33次地方制度調査会では「社会全体におけるデジタル・トランスフォーメーションの進展及び新型コロナウイルス感染症対応で直面した課題等を踏まえ、ポストコロナの経済社会に的確に対応する観点から、国と地方公共団体及び地方公共団体相互間の関係その他の必要な地方制度のあり方について、調査審議を求める」諮問に基づき検討を進めています。人口減少が長期的に進行する中、「新型コロナ後」「大災害時」「デジタル化」などで国と自治体と住民の関係はどのように進むかについて、住民・自治体・協同組合が関わる取り組み事例も参照しながら、2030年への方向を考えました。

基調報告 地方分権と地方自治の課題 国・自治体・住民の関係を考える

荒見玲子（名古屋大学大学院法学研究科教授）

事例報告 合併自治体で生まれてきた住民自治力 八木憲一郎（新城市在住：前自治振興事務所長）

事例報告 持続可能な地域づくり（住民・協同組合・自治体）の特徴 向井 忍（研究センター）

### 3. 2023年度の目標

- 「2040年における社会の構造的な変化」に向けて、2030年までにどのような準備が必要かを考えるセミナー（「公開研究会の継続編」「シリーズ2030」）を開催します。
- 「協同組合のアイデンティティ」見直しに関する意見をまとめるセミナーを開催します。
- 「大規模自然災害に備える」第4回公開セミナー（3県連携会議）を開催します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 協同組合間協同

#### 1. 2022 年度の目標

県単位の連携・協同をすすめながら、愛知県では連絡会への参加組織を広げます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

##### 1) 岐阜県

7月7日(木)、岐阜市のぎふメディアコスモスにおいて、岐阜県協同組合間提携推進協議会(構成団体:JA岐阜中央会、JA全農岐阜、岐阜県酪連、岐阜県生協連)主催の「協同組合を考える集い」を開催し、県内の協同組合と連合会から103名が参加しました。

この「協同組合を考える集い」は、毎年7月第1土曜日の国際協同組合デーに合わせて開催しています。協同組合を取り巻く近年の情勢を確かめ、県内の協同組合の職員が協同組合の価値について理解を深め、相互に学ぶことを目的に1992年から毎年開催しています。

##### 2) 三重県

2012年・国際協同組合年にJAグループと三重県漁連、三重県労福協、こくみん共済COOP、三重県生協連が国際協同組合年三重県実行委員会を組織し記念行事を開催。その翌年、これからも県内で幅広い協同組合連携を強化し、協同組合の社会的・経済的地位の向上を図るため三重県協同組合連絡協議会(以下、MJC)を発足させました。

2022年度は、これまでの活動に加え幹事を中心にラウンドテーブル(円卓会議)で地域課題への意見交換等を行っています。協同組合にとって人は一番大切な宝ですが、大事にしまっておくのではなく磨くことでその価値は高まります。協同組合で働く職員への教育や研修を、MJCで連帯しすすめています。

##### 3) 愛知県

7月6日、愛知の協同組合間協同連絡会(略称:協同組合ネットあいち)を発足しました。愛知県では2011年に国際協同組合年プレ企画を開催し、2012年に東海三県で記念行事を共催した後も、愛知県の国際協同組合デー記念行事を準備する実行委員会として協議の場を継続しました。2017年からは記念行事準備だけでなく、日常的な協同組合間協同を推進する相談会として位置づけなおし、記念行事だけでなく全国組織とも連携して学習会などを開催してきました。

「愛知の協同組合間協同連絡会」は県内の協同組合や協同組織の連携を強め、その社会的・経済的地位の向上を図りながら、持続可能な地域社会づくりに貢献すると目的を掲げ、各協同組合の県域組織や単位組織、地域課題解決のため協同組合と協同する団体(NPO法人等)および個人の参加を呼び掛けています。

第5回連絡会から、こくみん共済coop愛知県推進本部、東海労働金庫が連絡会に加わり、2023国際協同組合デー記念行事in愛知の具体化検討が始まりました。

#### 3. 2023 年度の目標

2023デー記念行事の開催を通して協同組合ネットあいちへの参加組織をひろげます。愛知県、および岐阜県、三重県での協同組合間協同に協力し、各県連携組織とのつながりを重視します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 全国の協同組合等研究組織との連携

#### 1. 2022 年度の目標

○2022 年 3 月 8 日の第 3 回研究組織交流会をうけて、全国各研究組織との連携を図り、会員による「協同のアイデンティティ」に関する話し合いを促進します。

#### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 第 4 回協同組合等研究組織交流会は、JCA 主催で 3 月 14 日にオンラインで開催されました。

##### 第一部 協同組合等研究機関における活動報告

農林中央金庫総合研究所	内田多喜生常務理事	近時の研究成果とセミナーについて
生協総合研究所	藤田親継専務理事	全国研究集会および常設研究会の成果について
全労済協会	柳下伸専務理事	勤労者生活実態調査アンケート結果について
JA 共済総合研究所	及川尚孝専務理事	農福連携の研究成果
信金中金 地域・中小企業研究所	品田雄志	協同組織金融に関するニュース&トピックについて
協同総合研究所	利根川 徳 専務理事	労協法成立後の取組状況（現況）

##### パネルディスカッション 地域の持続可能性への協同組合の関わり方

- ・日本生協連（二村睦子常務理事）：日本生協連 2030 ビジョンに照らした、地域の持続可能性に対して、生協がどのようにかかわるべきかビジョンと具体的な関わり方。特に経団連「企業検証 実行の手引き第 9 版」をもとに「安心してくらす地域社会のために」生協の地域課題への取組の実践と、ビジョンの構築を解説。
- ・JCA（西井賢悟主任研究員・協同組合研究チームマネージャー）：地域課題にどのように JA が関わっているか。JA 福岡市にみる循環型総合事業を例にした農業の便益と公益性、准組合員などによる、食や農に関わる活動参加で、地域農業を支えている現状、組合員の当事者意識と公益性の課題に対するアクティブメンバーシップによる地域の農業振興、環境、福祉への貢献を解説。
- ・地域と協同の研究センター（向井忍専務理事）：組合員が自発的に地域課題の解決に取り組む、中山間地域と都市部の事例（新城市やなマルシェ、飛騨市地域複合型サロン～貨客混載実証実験、瀬戸市菱野団地さるなかとんな toto...、豊田市保見団地ケアセンターほみ、桑名市ガーデン大山田、桑名福祉ヴィレッジ、豊明市おたがいさまセンターちゃっと）の実証研究を通じて、市民協働を生み出す協同組合の関わり（「コミュニティ型経済」を生み出す協同組合の役割）を示す。
- ・JCA（前田健喜協同組合連携 2 部部長・主席研究員）：「地域の持続可能性への協同組合の関わり方」について JA、生協、その他の協同組合がどのように関わるべきか論点を共有。

(2) 11 月 14 日（月）、2023 年 2 月 7 日に東京飯田橋、JCA ビル会議室で、協同組合等研究組織（全国 8 団体）で情報交換の場を持ちました。

#### 3. 2023 年度の目標

○「協同組合等研究組織交流会」及び、協同組合等研究組織（全国 8 団体）の情報交換に参加します。  
○第 4 回研究組織交流会での、地域と協同の研究センターの報告「地域の持続可能性への協同組合の関わり方～協同組合が「市民協同の母体」となる途」について、JA 兵庫中央会・コープこうべによる中堅職員合同研修「協同組合塾」（10 月 5 日）での講師依頼があり、参加します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 調査・研究テーマ 多文化社会と協同組合

#### 1. 2022 年度の目標

全国の協同組合の外国人雇用状況を調査、現状を把握する。協同組合学会テーマセッションで「多文化社会と協同組合」をテーマに報告をする。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

##### 多文化社会と協同組合懇談会

(4月16日、6月19日、7月2日、8月20日、10月22日、12月4日、1月15日)  
連続プログラムワークショップ DAY1~DAY5。海外事例から学ぶ。

##### 愛知県立大学多文化共生研究所との共催セミナー「多文化社会と協同組合」

8月7日 「平和と協同組合の役割～ウクライナからの避難者支援から考える多文化避難者支援～」

12月11日 「多文化社会を巡る協同の取り組み 3つの団地の事例から」(東海社会学会共催)

3月5日 「多文化社会における地域住民主体の協同組合・協同の取り組み」

##### オンラインセミナー

11月9日 「協同組合と平和構築 ポーランドにおけるウクライナ難民支援」

##### 協同組合へ外国人雇用についてのアンケート調査、ヒアリング調査

##### 研究奨励助成 (懇談会メンバー8名)

「多文化共生と協同組合のアイデンティティ」 連続プログラムを活用した研究調査

##### 協同組合学会秋大会テーマセッション報告

座長：田中夏子、第1報告 大橋充人、第2報告 神田すみれ、第3報告 部坂菜津子、  
フロアセッション 菅野晶仁

##### 執筆

鶏頭 (創刊号) 「多様な個性をいかし合う協同組合像」

鶏頭 (第2号) 「多文化社会と協同組合～難民受け入れから「市民ネットワーク」へ」

にじ (683号) 「地域の多文化社会を巡る協同の取り組み」

協同の発見 (365号) 協同の広場「移民難民の受け入れと雇用の経験が示唆する今後の社会への展望」

#### 3. 2023 年度の目標

協同組合学会春大会での座長の役割を通じて、多文化社会における協同組合の役割を深める。

研究奨励助成を活用し、多文化社会と協同組合懇談会で保見団地のフィールドワークを行い、多文化共生と協同組合のアイデンティティについてまとめる。2022年度に行った協同組合の外国人雇用の調査についてまとめる。



## 【第二の柱：組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 難民食料支援：共催の取り組み

#### 1. 2022 年度の目標

2021 年度、コロナ禍で東海地域に住む難民（申請中の方も含む）の方々が困窮されているとの声が NPO 名古屋難民支援室から寄せられ、「緊急難民食料支援活動」をすすめるために、アジア・ボランティア・ネットワーク東海と共に地域と協同の研究センターとして支援チームに参加しました。緊急食料支援を 5 回、学び語り合う会を 3 回開催しました。2022 年度も引き続き、食料支援と学び語り合う会の開催に取り組み、支援の輪を広げます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

学び語り合う会と食料支援のためのオンライン会議を、名古屋難民支援室とアジア・ボランティア・ネットワーク東海と共に三者で継続して定期的に開催しました。

学び語り合う会は④～⑥の 3 回開催しました。

学び語り合う会④は 6 月 18 日（土）に開催し、オンライン 22 名、豊橋会場 9 名、本山会場 15 名の参加でした。テーマは「国際法からみた日本の難民制度」で第一部では、難民参与員を務める洪恵子さん（南山大学教授）と太田達也さん（名古屋難民支援室翻訳ボランティア・南山大学教授）の対談から、「難民とは」「国際法とは」「難民条約と出入国管理、国の権限と国際法、日本の仕組み」などを学びました。ウクライナからの避難民の方々への支援についても多くの意見が出されました。

学び語り合う会⑤は 10 月 23 日（日）に開催し、参加者は、オンライン 7 名、豊橋会場 5 名、本山会場 8 名の 20 名でした。テーマは「難民支援から考える私たちのシチズンシップ ～今までの難民食料支援の取り組みとアフガニスタン・ウクライナに関する最新情報の交流を通して～」で、今まで取り組んできたことの振り返りとメンバーの想い、難民食料支援の意義も共有できました。参加者から「メッセージカードを支援者から送るだけでなく、難民のみなさんからもカード作成してもらってやりとりをしたい」という提案もあり、文房具を食品と一緒にお届けし、多くの方々からメッセージカードが寄せられ、交流が生まれました。子どもたちも楽しくカード作りに取り組んだ様子が伝わりました。

学び語り合う会⑥は 2 月 18 日（土）に開催し、参加者は、オンライン 7 名、豊橋会場 4 名、本山会場 24 名、新聞記者 1 名の 36 名（難民ご家族を含む）でした。テーマは「難民の方々とのメッセージのやりとりを通して」で、参加された難民の方々から生の声を聞く貴重な機会となりました。

緊急食料支援物資の仕分け・発送は、6 月 25 日（土）は 14 名、12 月 3 日（土）は 31 名の参加で取り組み、購入したハラル食品もお送りすることができ、喜んでいただきました。名城大学の「ボランティア論」を受講する学生のみなさんの参加が広がりました。

#### 3. 2023 年度の目標

これまでの経験を活かし 2023 年度も引き続き、3 つの団体（名古屋難民支援室・アジア・ボランティア・ネットワーク東海・地域と協同の研究センター）で難民食料支援に取り組みます。学び語り合う会（支援物資集め）を 3 回、食料支援品仕分け・発送を 2 回、多くの市民に呼び掛けて開催します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」への参加：共催の取り組み

#### 1. 2022年度の目標

○コープあいち・コープあいち労働組合・コープあいち9条の会・同OB9条の会などで構成する「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」に参加し、平和と日本国憲法を守る学習会等を共同で開催します。

#### 2. 2022年度の成果と課題

(1) くらしと平和憲法を守る実行委員会(4月、5月、6月、8月、9月、10月、12月、1月、2月)に参加しました。

・2月26日に開催した平和学習会「平和憲法を考えるつどい」パンフレットを編集、5月28日に発行し各会員に届けました。

(2) 実行委員会で4回の平和企画を開催(共催)しました。

・3月27日(日)憲法学習会

(情勢報告：ウクライナ情勢について、DVD講演：森英樹さん、意見交換)

・5月28日(土)「核兵器禁止条約を力に！」

(講演：「2015年NPT再検討会議」に参加して伝えたこと～被爆者と共に聴いたニューヨーク市民・学生の声/平光佐知子コープあいち副理事長)

・12月10日(土)「日米地位協定学習会」

(OB九条の会・暮らしと平和憲法を守る実行委員会共催)

・3月12日(日)「あいちの平和な未来創造」くらしと平和とつなげよう！報告交流会

第一部 ものづくりと、くらしと平和の懇談会

市田真澄さん(株デイリーファーム)、野田清衛さん(のだみそ株式会社)

第二部 「くらしと平和の願い交流会」メッセージリレー

生協組合員・大学生協(学生)・愛友会・原水協・ゆたか福祉会・難民支援NPO・ベトナム出身者・生産者・生協理事会・生協創立期役員・職員等から

#### 3. 2023年度の目標

○コープあいち・コープあいち労働組合・コープあいち9条の会・同OB9条の会などで構成する「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」に参加し、平和と日本国憲法を守る学習会等を共同で開催します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 会員が参加する自主研究会

### 友愛・協同セミナー

#### 1. 2022 年度の目標

○「友愛・協同セミナー」を2カ月に1回のペースで開催します

#### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 2020年5月に友愛・協同研究会が発刊した「友愛協同論～くらしの地平から」、2021年6月に発刊された続編「友愛協同論～ヒト・人間社会と友愛原理 未来社会づくりへの一試論(野原敏雄著)」の執筆者による報告をもとに「友愛・協同セミナー2022」を開催しました。

前半は、第二期友愛協同研究テーマを探る、とし

第8回5月14日(土) フランス社会的(連帯)経済からみた「友愛協同論」(仮)  
鈴木岳さん(生協総合研究所)

第9回7月23日(土) 今日の生活協同組合の到達点からみた「友愛協同論」(仮)  
柴田純一さん(元南医療生協常務理事)

第10回9月24日(土) 「平和と協同組合」第二期のテーマについて話し合いました。

第二期テーマは「友愛を指針に、社会変化に照らし、生協や地域の実践を深める」「これからの社会における生協の役割(現状分析を含め)を明らかにする」ことを目標とし、「研究者・役職者だけでなく市民・組合員・職員の立場・視点から話し合う」「自助と自己責任(の違い)・学習と運動・相互扶助の歴史など、基本的概念を深める」「友愛とはなにか、第一期研究会の到達点を継承し、実践的意味づけに力点を置くこととしました。

後半は、第二期友愛協同研究テーマを深める、とし参加者より報告しました。また、2023年6月に開催する日本協同組合学会・春期研究大会への報告内容を事前検討しました。

第11回 11月19日(土) 「生活協同組合における福祉事業実践」ジョ・ユソンさん  
(生活クラブ「風の村」)

第12回 01月28日(土) 「友愛と生協」石橋一郎さん、  
「回転型貯蓄信用講(ROSCAs)について」熊崎辰広さん

第13回 03月25日(土) 「学区住民組織の一現状と、そこから協同組合が学べる点は何か」  
～5年間の町内会長の経験を踏まえて～(橋本吉広さん)  
日本協同組合学会・春期研究大会を名古屋で開催するにあたって(向井忍)

#### 3. 2023 年度の目標

○「友愛・協同セミナー」を2カ月に1回のペースで開催します

○2023年6月に開催する日本協同組合学会・春期研究大会で、成果を報告します。

## 【第二の柱：協同組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信】

### 会員が参加する自主研究会

### サードセクター研究会

#### 1. 2022 年度の目標

○ サードセクター研究会（日本協同組合学会経済学・経営学部会）は2カ月に1回のペースで開催します。

#### 2. 2022 年度の成果と課題

（1）第19回研究会（実践発の討議）4月17日（日）、第20回研究会（研究的討議）7月17日（日）、第21回研究会（実践発の討議）8月21日（日）、第22回研究会（研究的討議）10月16日（日）、第23回研究会（実践発の討議）2023年2月12日（日）を開催しました。

（2）第19・20・21回研究会で「(生協における)「組合員の顧客化」要因分析と、克服へのアプローチ」をテーマに報告・討議して準備し、9月11日（日）第42回日本協同組合学会・新潟大学二日目に、経済学・経営学部会によるテーマセッションを行いました。

##### 【テーマセッション】

セッション前半 座長：安藤信雄（中部学院大学）

□報告1 生協組合員の「顧客化」に関する論点と現状 向井忍（地域と協同の研究センター）

□報告2 「生協組合員の顧客化」と組合員参加 川島美奈子（静岡英和学院大学）

□報告3 「協同組合のマネジメント構造」と組合員参加 青木雅生（三重大学）

□各報告へのコメント 田辺準也（地域と協同の研究センター）、向井清史（名市大名誉教授）

セッション後半 座長：青木雅生（三重大学）

□報告4 協同組合における「所有と経営の分離」と組合員参加 安藤信雄

□報告5 協同組合のアイデンティティにおけるユーザーシップの重要性 栗本昭（JCA）

□コメント「ICAにおける協同組合のアイデンティティの論点」と組合員参加 前田健喜（JCA）

（3）第22回はテーマセッションの報告～「協同組合のマネジメント構造」と組合員参加（青木雅生さん）、「協同組合における「所有と経営の分離」と組合員参加（安藤信雄さん）～を深めました。

（4）第23回では、「2022年度研究会のまとめ」「2023年度方針」（安藤信雄部会長）を確認し、日本協同組合学会春期研究大会・コンセプトメモ（向井忍）にそって、春期研究大会の報告する内容について意見交換しました（＜昨年の秋大会全体会をふりかえって＞＜組合員参加セッションのふりかえり＞＜協同組合のアイデンティティと21世紀＞＜商品・利用と組合員参加＞＜経済学と協同組合＞＜参加者意見＞）。

#### 3. 2023 年度の目標

○日本協同組合学会経済学・経営学部会を兼ねて、2カ月に1回のペースで開催します。

・4月23日（日）、日本協同組合学会・春期研究大会第一部の事前研究会として開催

○2023年6月に開催する日本協同組合学会・春期研究大会で、成果を報告します。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 共同購入事業マイスターコース

#### 1. 2022 年度の目標

各生協の企画委員の皆さんと調整し、引き続き、3生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）での協同の学びの場（共同購入マイスターコース）を開催できるようすすめます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

今期もコロナ下での開催となりましたが、7月開講から3月閉講まで、全7回の研修を実施できました。感染防止のため、当日研修に参加できない状況も一部生協でありましたが、時々状況に合わせてオンライン、リアルの併用（ビデオ視聴も含めて）で開催してきました。今期の受講生はコープぎふ7名、コープあいち6名、コープみえ9名、トランコムDS（株）3名、（株）アシスト2名、合計27名です。企画委員は、コープみえの妹尾成幸さんを座長に各生協から出していただき合計9名ですすすめていただきました。

##### 受講生の感想

・改めてマイスターを受けて、担当として組合員さんに何が出来るかや、組合員さんが生協に対してどう思っているかといった事が分かり、今まで担当として関わってきましたが「配達員」になっていた部分があったと感じました。第5回の講義やグループディスカッションを通して、今までは「いつも利用しているな～」や「利用が少ないな～」と思うだけでしたが、講義を通して「この商品が良い」という組合員さんの思いを読み取っていく事が重要だと気付きました。その為には組合員さんと今まで以上に関わっていきたい。

・皆がそれぞれ学んだことをしっかりとお伝えできていて、共に学ぶことができたことに感謝します。そして、どの方も組合員との関わりが変わったという方が多く、また気付いた事も多くあり、全員でここまでたどりつけたとことにうれしく思います。

皆、堂々と話していて、目の輝きが最初の時と違うな一と思ひ、自信に満ちあふれていると思ひました。それぞれ支所に戻り、支所で共有し、活躍されていくと思うので、私も皆さんに負けないう組合員さんに全力でむきあっていきたいです。

・参加者、それぞれがセンターに持ち帰り、実践したことやこれからしていくことの共有は、自分がこれから実践していくもののヒントになったり、私もそれをしていこうという気持ちになりました。皆さんの意見、声は貴重であり、発見が多いものになります。自分の次の行動や意見のヒントになるため、これからもグループメンバー含むセンターの仲間とのコミュニケーションを大事に考えていきます。

・組合員とのコミュニケーションの重要性や、またグループワークの難しさや、自分とは違う意見に気付く事の楽しさを皆さん仰っていて、私自身同じ様に思っていました。全7回、大変だった時もありましたが、無事終えれた事に感謝の気持ちで一杯です。色々と教えて頂いた中でも、考える事、学ぶ事の重要性、悩む事の大切さを大事にしていきたいと思ひます。この様な学ぶ場を与えて頂き、企画、運営部の皆様方、ありがとうございました。そして一年間共に学ばせて頂いた皆様、ありがとうございました！

#### 3. 2023 年度の目標

引き続き、3生協の企画委員の皆さんと調整し、協同の学びの場を開催していけるようにしていきます。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 組合員理事ゼミナール

#### 1. 2022 年度の目標

2022 年度と 2023 年度で第 8 期組合員理事ゼミナールを開講します。第 9 期（2024 年度）の同ゼミナールの持ち方を、主体者である東海三生協で検討・確立します。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

2021 年度第 4 四半期の東海三生協理事長・副理事協協議、第 7 期（2020 年度・2021 年度）同ゼミナール世話人会のふりかえりをもとに、第 8 期を準備。例年から約 1 カ月遅れの 10 月 13 日、第 1 回を開催しました。

第 8 期の受講者は、今年 6 月各生協通常総代会で選任された 1 期目組合理事 17 名（コープぎふ：4 名、コープあいち：7 名、コープみえ：6 名）です。17 名の受講を各生協から組合員理事 2 名と職員 1 名が参加して世話人会を形成し、各回の進行協議と実行、ファシリテーターを担っています。

第 1 回：わたしと他者自他の共感の世界をつくるコミュニケーションを学びあう

第 2 回：民主的な統治、理事会、執行者としての役割と使命を再認識し合う

第 3 回：「生協運動への知見を深め広げるⅠ」～生協（協同組合）運動への夢とロマンに学ぶ～

第 4 回：生協法を学び合い、一人ひとりが大切にされる民主的な組織統治を考え合う

第 5 回：「生協運動への知見を深め広げるⅡ」～協同組合運動の歴史を学び、

生協運動の未来を考える。そして理事就任後 8 カ月をふりかえる～

これまでに、東海コープ事業連合理事研修でのオンラインのつながりはありましたが、直接会って話ができる環境となり開催目的のひとつ「交流」が大いに進んでいます。学びという点でも、講義とグループ交流がこれまで知らなかった組合員理事の役割や存在価値への気づきとして湧きあがっています。

#### <「組合員理事ゼミナール」の場づくりの目的>

- ①組合員の願いに応える理事会＝ボードづくりに向けて、くらしの実感や協働の担い手としての実感に根ざした「組合員理事の固有の役割」を果たすために、「組合員理事が考え合い、学び合う」場をつくり、そのエンパワメントをつくりあって、理事の役割と使命を担える確信と誇りをつくり合う。
- ②東海地域 3 生協の組合員理事が互いに交流し合い、広い視点から生協運動における諸点を考え合い、学び合う場をつくる。

#### 3. 2023 年度の目標

第 8 期二年目（後半期）のカリキュラムで開催します。

組合員理事ゼミナールの参加主体者である三生協が 2023 年総会回以降、2022 年のふたつの協議で浮かび上がった改革課題を検討する場を継続的に開催して、2024 年度のステップアップを目指します。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 協同の未来塾

#### 1. 2022 年度の目標

第 8 期（2022 年度）を開催し、未来の生協運動を担える人財育ちをささえます。

第 7 期（2021 年度）修了者の実践交流会を開催し、修了後 9 カ月の実践校持ち寄り悩みを分け合い、生協運動への今後の確信性を作りあいます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

##### 1) 第 8 期（2022 年度）

10 回・11 日程のカリキュラムのうち、第 6 回（11 月 19 日）までが開催できました。今年度の受講者は 18 名（コープぎふ：5 名、コープあいち：6 名、コープみえ：5 名、岐阜市立女子短期大学生協、名城大学生協から各 1 名）。運営する企画・推進委員は東海三生協と全国大学生協連東海ブロック 9 名が担っています。

これまで開催した単元は右枠の通り。ロッヂデールから協同組合のアイデンティティ。経済学、社会学、地域福祉領域からとらえた（生活）協同組合の存在意義と価値の講義をきき、生協らしさや地域における氏名・役割を解き合ってきました。日常業務では触れられないテーマを、時間をかけて他生協・他職場の職員と考え合う場はこれまでに経験できなかった学びと気づきにつながっています。

新型コロナウイルス感染が秋以降、落ち着きだし、11 月以降は受講者 18 名が一つの会場に集合して開催することができました。

日常活動では触れられないテーマで共同研究をすすめ、協同組合人としての自覚と考え方の軸、生協運動推進者として社会変革の一翼を担う使命感を養いあい、未来の生協運動を担う人財が広がっています。

第 1 単元	協同組合史
第 2 単元	協同組合論と協同組合の哲学（2 回に分けて）
第 3 単元	資本主義経済システムと非営利・協同セクター
第 4 単元	社会的関係資本論～協同組合とコミュニティ
第 5 単元	地域福祉型生協への展望
第 6 単元	消費者の権利確立と生協・消費者運動への期待
第 7 単元	協同組合の特性ある経営と価値創造の事業構築へのイノベーション論と非営利組織のマーケティング論（2 回に分けて）
第 8 単元	協同組合人の想いと未来へロマン～生協設立の思いとロマンから学ぶ

##### 2) 第 7 期修了者実践交流会

11 月 30 日 I.M.Y ビル（名古屋市東区）で、14 名（修了者 18 名）が参加して開催しました。コープぎふとコープみえの二つの実践に学び、修了後 9 カ月の実行を交流しました。

#### 3. 2023 年度の目標

第 8 期（2022 年度）の企画・推進委員会ふりかえりから一日の進行改善をすすめ、第 9 期を開講します。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 名古屋市立大学寄付講義

#### 1. 2022 年度の目標

2022 年年度は 1 期 3 年 3 期目の最終年になり、今年も前期 15 講義で開始します。これまでの授業の蓄積を踏まえつつ、今年度は特に近代社会が生み出した豊かさの代償として失った、人と人、人と自然の社会的つながりをどう再生していくかを講師と一緒に考え、自己成長にもつなげていきます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

現代社会と人と地域のつながり」をテーマとした名市大の寄付講義は、第 3 期 3 年目を迎えました。1 期 3 年で 3 期 9 年間続いた本講義は次期への継続を予定していないことから、最終年を迎えることになりました。これまでの講義では一貫して近代社会の分業と専門化がもたらす豊かさの代償としての社会問題を背景に考えてきました。特に人と人の繋がり希薄化、そして孤立化や格差が拡大する社会において、人や自然とのつながりを再生させようと活動している講師のみなさんから話を聴き、物質的豊かさと精神的豊かさのバランスを如何にとるかについて考え合いました。

今年度の授業は、完全に対面授業で座席は指定席で実施されました。受講者は 1 年生 24 人、2 年生 30 人、3 年生 5 人、4 年生 4 人の 63 人が受講しました。授業資料の事前配信や出席管理、レポート提出、成績管理などは、昨年同様授業支援システム（Live Campus）を活用し、授業後に授業の動画を配信しました。

講義に登壇いただいた団体は昨年に引き続き、わいわい子ども食堂・消費者被害ネットワーク東海・ポトスの部屋・南医療生協・JA ひまわり・あいちあんきネット・コープあいち・名北福祉会・ワーカーズコープのみなさんで、実践の現場からの貴重な報告をしていただきました。

学生の受講動機については、シラバスの問題提起に応じて「社会問題について触れる機会がなかったため貧困や高齢者問題について知りたい」「地域での人と人の繋がり大切さを実感したい」「子供の貧困問題に関心があり、子ども食堂や学習支援について学びたい」「将来地方公務員を希望しており地域における問題解決の参考にしたい」「障がい者の自立問題に関心があり実践で取り組んでいる人たちの話を聴きたい」など具体的な目的を持って受講した学生が多くみられました。社会問題を知りその解決に向けて積極的に取り組みたいという気概を感じることができました。

各講義後には出席確認のための小レポートを課し確認しました。社会問題を自分自身と対峙した感想が多くみられ、自身を見つめ直し自己成長につなげる機会でもあったようです。レポートはシステムにも掲載し共有しました。

最終的な評価については各講師から課題テーマを出していただき、その中から一つ選んで提出し、講師による採点を経て、出席率を加算し評価されました。課題レポートの提出数はやはり学習支援、子ども食堂、障がい者福祉に対してのレポートが大半を締めました。

2014 年度に始まった名古屋市立大学での寄付講義は 2022 年度で終了しましたが、9 年間の講義の蓄積を検証し今後に生かすための検討を進めることが期待されます。



## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 金城学院大学「協同組合論」：大学での協同組合等に関する授業の開講

#### 1. 2022 年度の目標

2021 年度後期の授業の成果と課題を検証し、2022 年度につなげます。

金城学院大学「協同組合論」は同大学人間科学部コミュニティ福祉学科のカリキュラムに位置付けられた全国の大学でも数少ない授業です。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

2018 年、地域と協同の研究センター理事でもある金城学院大学・朝倉美江教授の長年のご努力により同大学のカリキュラムとして「協同組合論」が位置付けられ、2019 年より金城学院大学から委託される形で地域と協同の研究センターの関係組織・個人が講師となって、学生の中に協同（組合）に触れる授業を実施してきました。2022 年度は 4 年目です（※授業テーマと登壇者・組織は右枠の通り）

##### 【到達目標(Course goals)】

人々が協力し合うことで成り立つ組織である協同組合の理論と実践について理解することができる。

2022 年度は 49 名履修し、第 9 回までが終了しました。第 8 回は 7 回前の学習・体験をベースに、「協同組合らしさ」を考え合うグループワークと発表を実施。感想から協同組合を学ぶ難しさと価値が寄せられ、ソーシャルウーマン：社会に積極的に参加し、地域に生きる人々とともにすべての人々が幸せに暮らすことができる社会を作ることができる女性、としての学びと気づきの授業がすすんでいます。

最終回（2023 年 1 月 19 日）はこれまで学んだ協同組合とその実践を通して、「私たちの未来と協同」についてグループ発表を行いました。

- |   |
|---|
| 1 回/協同組合の価値と歴史/八木憲一郎氏   |
| 2 回/地域の農業と資源循環/市田眞澄氏  |
| 3 回/食の安全と健康/東海コープ商品検査センター                                     |
| 4 回/大学生活と大学生協/金城学院大学生協  |
| 5 回/食がつなぐ新し家族/Café わたぼうし（内藤穂波さん）<br>fieldwork/東海コープ商品検査センター見学 |
| 6 回/子どもと地域の居場所づくり/子ども食堂（杉崎伊津子さん）                              |
| 7 回/高齢者のくらしとたすけあい/コープくらしたすけあいの会                               |
| 8 回/グループワーク：協同組合と社会   |
| 9 回/障害者の権利と福祉人材/ゆたか福祉会  |
| -----   |
| 10 回/住み慣れた地域で住み続ける/各務原市八木山社協                                  |
| 11 回/多文化社会と協同組合/ケアセンターほみ                                      |
| 12 回/協同労働という可能性/ワーカーズコープ東海事業本部                                |
| 13 回/住民主体のまちづくりと協同組合<br>/やなマルシェ・飛騨市地域複合サロン                    |
| 14 回/行動する市民と協同のまちづくり/NPO エム・トゥ・エム                             |
| 15 回/グループワークと発表：私たちの未来と協同                                     |

#### 3. 2023 年度の目標

2019 年に開講し、2023 年度で 5 年目。地域と協同の研究センターとつながりのある「地域での協同活動実践者」を登壇者として挙げ、大学生の間にソーシャルウーマンへの一步を踏み出す後押しをすすめます。

### 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

## 名城大学「ボランティア入門」大学での協同組合等に関する授業の開講

### 1. 2022年度の目標

○2022年度、各大学での授業を継続します。ゲスト講師の事例は、会員向け教材等に生かします。

### 2. 2022年度の成果と課題

(1) 前期：法学部（204名）、後期：人間学部（184名）が受講しました。

・シラバス（後期）は以下のとおりです。★はゲスト講師（登壇・オンライン含む）

1. 9月20日：ガイダンス。「人口減少社会」とはなにか	
2. 9月27日：「人口減少社会」で期待される市民/ボランティア活動	★難民食料/ウクライナ支援
3. 10月04日：人口集中地の「空洞化」とボランティア	★春日井くらしたすけあいの会 ★多文化ソーシャルワーカー
4. 10月11日：高齢化が急速に進む近郊住宅地とボランティア	★八木山地区社協
5. 10月18日：中山間地域の生活拠点を築くボランティア	★やなマルシェ・★飛騨サロン
6. 10月25日：専門職の力とボランティア	★いなぶ健康アカデミー
7. 11月01日：巨大災害時の被災・避難とボランティア	★原発事故による避難者
8. 11月08日：「まちの居場所」とボランティア	★Café わたぼうし
9. 11月15日：子どもの居場所とボランティア	★わいわい子ども食堂
10. 11月22日：災害体験の中から、人は何を学ぶのか	★津波被災による避難者
11. 11月29日：日本に暮らす外国人とボランティア	★ケアセンターほみ
12. 12月06日：「ボランティア」への挑戦	★学習支援NPOポトスの部屋
13. 12月13日：市民活動（ボランティア活動）を支える	★難民食料支援・ウクライナ支援
14. 12月20日：「多文化社会」と私たち	★多文化ソーシャルワーカー
15. 12月27日：市民（ボランティア）が拓く未来	・受講生の発表

(2) 前期・後期とも授業で「難民食料支援」ボランティアに取り組み、食料品・メッセージ・募金の持参と箱詰め作業への参加を呼びかけ、前期はのべ66名、後期はのべ122名が参加しました。

(3) 後期受講生による授業評価アンケート（回答156名）は以下のとおりです。

設問(1)「人口減少社会」についての理解：おおよそ52%、やや48%

設問(2)ゲストの話による「ボランティア(市民)活動」の理解：ほぼ52% やや47% あまり1%

設問(3)授業に「ボランティア活動参加」を盛り込むこと：増やす63% 現状29% なくてよい8%

設問(4)「受講生のボランティア経験」をとおした理解：進んだ61% やや37% あまり2%

設問(5)授業の進め方で継続すること、改善すること：改善強化15名 是正点3名 技術面等5名

設問(6)授業を履修しての考え方の変化：確信強化21%、変化72% 少・無関係7%

### 3. 2023年度の目標

○2023年授業（前期・後期）を開講します。

○参考図書として「市民協働によるまちづくり」を活用します。

【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

三重大学：大学での協同組合等に関する授業の開講

1. 2022 年度の目標

○2022 年度、各大学での授業を継続します。

2. 2022 年度の成果と課題

●三重県生協連・三重県協同組合連絡協議会の支援による、三重大学特殊講義「協同組合論」が開講し、地域と協同の研究センターとして第 14 回「協同組合と現代社会」（1 月 23 日）を担当しました。

授業計画（2022 年度）

（敬称略）

		テーマ	講師	所属
1	10/03	イントロダクション 協同組合の仕組みと原則①	青木雅生 石田正昭	三重大学 リカレント教育センター 教授 三重大学 名誉教授
2	10/17	協同組合の仕組みと原則②	石田正昭	三重大学 名誉教授 日本協同組合学会 元会長
3	10/24	生協運動の現在と未来	土屋敏夫	日本生活協同組合連合会 代表理事会長
4	10/31	大学と協同組合	中村智司	三重大学生活協同組合 翠陵店 店長
5	11/10 木曜日	消費者と協同組合	宮崎清文	生活協同組合コープみえ 宅配事業部 桑名センター センター長
6	11/14	医療・福祉と協同組合	大田 卓	みえ医療福祉生活協同組合 津生協病院 医事課 主任
7	11/21	食と農からみた協同組合	村田智広	三重県農業協同組合中央会 企画総務部 次長
8	11/28	中小企業と協同組合	白木宏範	三重県中小企業団体中央会 事務局次長
9	12/05	協同組合と共済	和田寿昭	日本コープ共済生活協同組合連合会 代表理事理事長
10	12/12	協同組合と市民	松井真理子	四日市大学 総合政策学部 特任教授
11	12/19	働く人の協同	豊内和寿	日本労働者協同組合連合会センター事業団 東京南部事業本部 総務経理センター長
12	01/10 火曜日	世界の協同組合	天野晴元	日本生活協同組合連合会 国際部 部長
13	01/16	協同組合間協同	前田健喜	日本協同組合連携機構 協同組合連携 2 部 部長
14	01/23	協同組合と現代社会	向井 忍	NPO 法人 地域と協同の研究センター 専務理事
15	01/30	協同組合の未来	青木雅生	三重大学 リカレント教育センター 教授

3. 2023 年度の目標

○2023 年度も「協同組合と現代社会」2024 年 1 月 22 日（月）を担当します。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 協同組合による、大学での学びと進路選択支援

#### 1. 2022 年度の目標

○協同組合インターンシップの継続を支援します。

#### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 協同組合インターンシップは、大学生協（東海ブロック）が事務局となって実施されました。

(2) 「名古屋市立大学」「金城学院大学」「名城大学」での授業をとおして、ゲストが紹介した活動への参加を呼びかけました。

・名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」では、名市大生協の総代や学生委員への参加をよびかけました。

・金城学院大学「協同組合論」では、東海コープ商品検査センターの見学を行いました。また前年度「協同組合論」の受講生は、朝倉ゼミで瀬戸市菱野団地「さるなかとんな toto...」に関わった経験の第 19 回東海交流フォーラムで発表しました。

・名城大学「ボランティア入門」では、これまでの受講生が、学習支援 NPO ポトスの部屋の学習支援サポーターの中心となって活躍しています。また、前期受講生は「ウクライナ支援プロジェクト」の代表となって活動しました。

・難民食料支援の発送作業には名城大学（前期 2 名、後期 10 名）、名古屋外国語大学の学生が参加し、世代をこえて社会人とも交流し、継続参加の意向が出されています。

#### 3. 2023 年度の目標

○2023 年度「協同組合インターンシップ」の計画にそって、支援します。

○各大学での協同組合等に関わる授業の受講生が、社会（ボランティア）活動に参加できる機会をつくります。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 市民が協働を学ぶ講座（飛驒）

#### 1. 2022 年度の目標

○市民が協働を学ぶ講座:フィールドワークの成果を出版し、普及・活用（ケーススタディ）につなげます。第3期講座を準備します。（新規参加、講座修了者の支援、飛驒市でのセミナー開催など）。

#### 2. 2022 年度の成果と課題

(1) 7月30日に飛驒市役所で「持続可能なまちづくり in 飛驒」を開催しました。

第1部「困りごと」は変化のちから

報告：「やなマルシェ」・運営する担い手づくり（JA 愛知東女性部）

住民の自治力とは（新城市自治組織）

報告：「地域複合サロン」の広がりと支える力（飛驒市住民）

住民の健康づくり・買い物支援（飛驒市地域包括ケア課）

報告：「地域ささえ愛」宅食サービス・家事支援サービス（JA 愛知東）

地域福祉活動を続けるために（新城市社会福祉協議会）

報告：「ヒダスケ！」市民の「困りごと」を全国から「お助け」していただく

（飛驒市ふるさと応援係）

第2部 住民主体のまちづくりとは

対談 住民の力・行政の役割（穂積亮次前新城市長・都竹淳也飛驒市長）

(2) 11月12日（土）には、コープぎふの「飛驒市北部から各地に地域サロンの広がりをつくる」活動の一環として、22年度コープ共済連地域ささえあい助成を活用した、サロン運営メンバーや地域関係者を含めた研修学習「新城市（やなマルシェ）見学」が行われました。

・6:00 頃宮川振興事務所発、9:30 頃 新城市着・やなマルシェ視察見学（飛驒物産出展・五平餅）、ちやっとパン見学、昼食休憩（JA 女性部・配食弁当）15:00 頃新城市発、18:30 頃宮川振興事務所着

・飛驒市より、宮川・河合地域のサロン運営メンバー、JA ひだ組合員課長・職員・JA ひだ女性部・山びこの会（高山市朝日の空き店舗活用）、高山市社会福祉協議会、地域関係者、飛驒市地域包括ケア課、おたがいさまひだ、コープぎふ職員が参加、新城市では、副市長、JA 愛知東組合長、新城市社会福祉協議会会長、新城市役所、コープあいち新城センター長が参加し出迎え。

・ミニ飛驒物産展は、飛驒市長より「折角何うのなら飛驒産物をお持ちして交流しては」との提案があり準備されました（「持続可能なまちづくり in 飛驒」のお礼に9月26日に飛驒市長訪問の際）

(3) 12月に市民講座の成果をまとめた刊行物「市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会への途」（向井清史編・著）を発刊しました。

(4) 「持続可能なまちづくり in 飛驒」企画は、瑞浪市の地域福祉の施策に生かされています。

#### 3. 2023 年度の目標

○新たな地域の経験にも学ぶ、第3期講座に着手します。

○「市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会への途」を普及・活用します。

## 【第三の柱：関わる人のエンパワメント】

### 第6期研究奨励助成

#### 1. 2022年度の目標

第6期研究奨励助成を実施します。募集テーマ：「協同組合のアイデンティティ（協同組合らしさ）」に関するもの

- 組合員の生活意識と協同組合の役割／災害への備えと協同組合の役割
- 多文化社会と協同組合の役割／地域のつながりと協同組合の役割
- 経験や歴史から探る協同組合の歴史／日常の仕事から示す協同組合の役割

#### 2. 2022年度のまとめ(成果と課題)

##### 1) 応募と審査結果

目的を「会員・市民の活動や地域の活動がより豊かなものとなるよう、会員の調査・研究活動を支援する」として、5月25日地域と協同の研究センターNEWS およびホームページで公示。6月20日を期限に5グループ・個人から応募がありました。第2回常任理事会で助成を決定し、第2回理事会で報告確認いただきました。

助成総額 50万円

助成コース	A	20万円	調査・研究計画により審査	1件
	B	10万円	調査・研究計画により審査	2件
	C	5万円	調査・研究計画により審査	2件

##### 助成結果

No.	申請代表者	申請テーマ	申請額 コース	目的・ 仮説	計画・ 予算	体制・ 役割
1	菅野 晶仁 グループ・東京都世 田谷区	多文化共生と協同組合のアイデンティ ティ 連続プログラムを活用した研究 調査	A 20万円	○	○	○ (8名)
2	樽松 佐一 個人・名古屋市守山区	日常生活支援の実態と制度の課題	B 10万円	○	○	個人研究
3	津坂 賢一 個人・愛知県春日井市	2030年の生活上のテーマの変化と生 協周辺事業の可能性	B 10万円	○	○	個人研究
4	熊崎 辰広 個人・岐阜県岐阜市	有機農業と協同組合役割	C 5万円	○	○	個人研究
5	古田 豊彦 グループ・名古屋市 港区	「協同組合のアイデンティティ」ー川 上の協同～水素コミュニティ・境界領 域での協同のまちづくり	C 5万円	○	○	○ (5名)

##### 2) 進捗

11月27日、No.2 樽松佐一氏から研究報告書が提出され、第7回常任理事会（12月6日）にて受理を確認しました。他の4グループ・個人は2023年3月末時点の研究中間報告を参考資料として共有ください（36頁以降に掲載）。

#### 3. 2023年度の目標

2023年12月末、研究の成果が報告されます。研究報告（成果）を活用した公開研究会の具体化をすすめます。

## 【第四の柱：協同にかかわる情報の蓄積と社会発信】

### 増刊「地域と協同」の発行と研究成果報告・研究誌

#### 1. 2022年度の目標

- 「地域と協同・研究誌」を2回発行します。
- 増刊「地域と協同」（2回）発行します。「ブックレット」は適宜発行します。

#### 2. 2022年度の成果と課題

- (1) 2月26日に開催した平和学習会「平和憲法を考えるつどい」のパンフレットを発行しました。
  - ・「平和憲法を考える」（5月28日）
- (2) 「地域と協同・研究誌（鶏頭）」二号・三号を発刊しました。
  - ・鶏頭二号「新しい市民社会に向かって」（9月30日）
  - ・鶏頭三号「特集Ⅰ地域から広がる協同の芽、特集Ⅱ組合員のくらしの変化から新しい市民社会への課題を探る」（2023年1月20日）
  - ・会員の投稿を促進する報奨制度をスタートしました。
- (3) 8月7日に開催した愛知県立大学との共催セミナー「平和と協同組合」報告書を発行しました。
  - ・「平和と協同組合の役割」（10月1日）
- (4) 「市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会への途」（向井清史編・著）を発刊しました。（12月20日）
- (5) 増刊「地域と協同」は、「大規模災害に備える公開セミナー特集」

#### 3. 2023年度の目標

- 「鶏頭」（地域と協同・研究誌）：年2回予定、増刊「地域と協同」（活動紹介や企画報告）年2回予定、「ブックレット」（テーマ別の小冊子）適宜を発行します。

## 地域と協同の研究センターNEWS

<212号～223号の掲載論考・記事一覧>

212号 (4月)	<p>【巻頭】平和とよりよい生活のために—ロシアによるウクライナ侵攻・侵略に抗して—中川 雄一郎 (明治大学名誉教授)、愛知県に避難されているウクライナからの難民のみなさんのこと 神田すみれ (地域と協同の研究センター研究員)、「憲法学習会」の開催報告～ウクライナにかかわる支援報告を中心に～ 伊藤 小友美 (事務局)、第7回友愛協同セミナーの報告 熊崎 辰広 (担当「相互扶助の系譜と協同組合」)、情報クリップ、書籍紹介「雑誌：季刊『農業と経済』『農業と経済』編集委員会編</p>
213号 (5月)	<p>【巻頭】平和なくして福祉なし 朝倉美江 (金城学院大学大学院文学研究科教授)、第22回通常総会開催のご報告 渡辺勝弘 (事務局長)、「大規模災害に備えて」第2回公開セミナーが開催されました！南海トラフ (自然災害) に備える3県連携会議 (仮) の報告 事務局、とうかい食農健サポートクラブ 第21回総会記念シンポジウムの報告「コロナ禍の2年をふりかえって！」 事務局、ウクライナ難民の現状から見えてくること 神田すみれ、第6期研究奨励助成募集のご案内、書籍紹介「沖縄恩納村・サンゴまん中の協同-恩納村漁協・生協・恩納村・井ゲタ竹内の協創- (同時代社)</p>
214号 (6月)	<p>【巻頭】第22回通常総会記念シンポジウムの報告「組合員のくらしの変化」から2030年・新しい市民社会への課題を探る～2021年全国生協組合員意識調査をうけて、尾張地域懇談会 NPO名古屋難民支援室 (DAN) 訪問レポート 近藤 充代 (日本福祉大学 非常勤講師)、「核兵器禁止条約」を力に！開催報告 伊藤 小友美 (事務局)、「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワークの設立経緯と支援の現状」 神田すみれ、書籍紹介「ウクライナ侵略戦争—世界秩序の危機」</p>
215号 (7月)	<p>【巻頭】研究センターに集う人々の言論と研究を深めていくことに期待する 近本聡子 (愛知学泉大学 教授)、「おたがいさま」「くらしのすけあいの会」総会に参加して！事務局、協同組合の平和への取り組み 神田すみれ、企画紹介 2022年歴史教育者協議会全国大会 8月6・7日第73回愛知/東海大会</p>
216号 (8月)	<p>【巻頭】地域と協同の研究センター理事就任にあたって 多村 幸司 (生活協同組合コープぎふ常勤理事・地域と協同の研究センター常任理事)、2022国際協同組合デーin愛知「協同組合の可能性と役割を考える」を開催 —ICA ソウル大会を起点とする「アイデンティティ」協議についての報告～分散会～愛知の協同組合間協同連絡会 (協同組合ネットあいち) の発足へ！— 野田幸男 (事務局)、平和と協同組合の役割 ～ウクライナからの避難者支援から考える多文化避難者支援～ 神田すみれ、書籍紹介 (必要) から始める仕事おこしー「協同労働」の可能性 出版社：岩波書店</p>
217号 (9月)	<p>【巻頭】「持続可能なまちづくり in 飛騨」を飛騨市で開催しました！ 事務局、協同組合のできる町 大宮克美 (尾張地域懇談会世話人)、アフガニスタンやウクライナの避難民の受け入れから今考えたいこと 神田すみれ、「有機農業でつながり、地域に寄り添って暮らす」—岐阜県白川町 ゆうきハートネットの歩み— 出版社：筑波書房</p>
218号 (10月)	<p>【巻頭】「協同組合のアイデンティティ」(らしさ)をみんなで考えませんか！第一回公開セミナー 事務局、「地震イツモノート」学習会《三河地域懇談会の活動》「あなたの命を守る第一歩は、安全な建物の中にいることです」 伊藤小友美、ウクライナ等避難民のみなさんの住居環境とホスト社会の担う役割について 神田すみれ、書籍紹介「日本再生のための『プランB』医療経済学による所得倍増計画」</p>
219号 (11月)	<p>【巻頭】小・中・高での「読書の習慣」と大学生の読書時間、および「人間の幸福」上掛利博 (京都府立大学名誉教授)、「味噌は作らない、育てる。」 味噌蔵見学記 《三河地域懇談会の活動》 伊藤小友美、ウクライナ等避難民のみなさんの長期化する避難生活支援について 神田すみれ、書籍紹介 「増進型地域福祉への展開—幸福を生みだす福祉をつくる」 出版社：同時代社、</p>
220号	<p>【巻頭】今、私たちはどのように食と農を考え、行動すべきなのか 大原興太郎 (三重大学名誉教授)、恵那市中野方町「NPO 法人ために暮らそまい会」を訪問しました 岐</p>



(12月)	<p>卓地域懇談会（報告：事務局 熊崎辰広）、難民食料支援学び語り合う会⑤ 食料仕分け発送 概要報告 報告：伊藤小友美（事務局）、ウクライナ等避難民の方々を学生のみなさんと一緒に支援し、冬を迎えて 神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）、書籍紹介：農家女性の戦後史 日本農業新聞「女の階段」の五十年 著者：姉齒 暁</p>
221号 (1月)	<p>【巻頭】社会保障運動と地域社保協の役割 河村 彰英（岐阜県社会保障推進協議会 事務局長）、「労働者協同組合法の施行と東海地域での動向」日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団 東海事業本部 本部長 岡田俊介、共生の輪のひろがりをめざして ～多文化共生と地域共生～ 妹尾 成幸（三重地域懇談会 世話人）、ウクライナ避難民のみなさんの今 神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）、書籍紹介：コロナ禍の外国人実習生—外国人実習生SNS相談室より 著者：樽松佐一</p>
222号 (2月)	<p>【巻頭】第19回東海交流フォーラムを開催しました！向井忍（地域と協同の研究センター専務理事）他、つながり、支え合う。同じ地域社会に暮らす市民として 神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）、書籍紹介：日本に住んでる世界のひと 著者：金井真紀【文・絵】</p>
223号 (3月)	<p>【巻頭】深刻化する食・農・畜産危機 家族農業重視とアグロエコロジーへの転換で持続可能社会を岡崎 衆史（農民運動全国連合会（略称：農民連）事務局次長・国際部長）、大規模災害に備えて 第3回公開セミナー 全国の災害時の経験から考える、難民食料学び語り合う会⑥概要報告 報告：伊藤小友美（事務局）、小林憲明氏 “ダキシメルオモイ”展 開催報告 報告：伊藤小友美（事務局）、海外からの避難民のみなさんが 日本社会で安定した生活が送れるように 神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）、書籍紹介：振り返れば未来 山下惣一聞き書き 聞き手 佐藤弘</p>

## 【第四の柱：協同にかかわる情報の蓄積と社会発信】

### 「地域と協同の研究センター」としての発信力の強化と組織づくり

#### 1. 2022 年度の目標

2022 年度事業計画の実践を通してつながりを強め助け、「地域と協同の研究センター」での研究の主体者を広げてゆきます。

#### 2. 2022 年度のまとめ(成果と課題)

##### 1) 第一の柱：地域でのより確かな人のつながりづくり

地域懇談会は新型コロナウイルス感染症下、地域ごとに工夫して活動を継続・再開。これまでの活動でつながった団体・組織に再び学ぶことや新しい文化の研究（三河地域の煮味噌）など、つながりを維持・強化しました。また、難民食料支援やウクライナ避難民問題、NPO 名古屋難民支援室とのつながりから「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」に参加しています。

フォーラム研究は「地域福祉を考える市民協同」が三重県桑名市ガーデン大山田、「環境」は環境側面から見た新しい農業に学ぶなど新しい研究対象を検討しています。

市民講座での 2018 年～2019 年の実践をふまえ、市民協働の実践事例と受け止め方について発行物を準備。また、7 月 30 日には岐阜県飛騨市でセミナーを開催しました。



##### 2) 第二の柱：組合・市民協同組織の果たす役割や目指す方向の発信

生協の（未来）のあり方研究会、会員による友愛協同セミナーとサードセクター研究会で（生活）協同組合のあり方や実践の研究、発刊物を題材にした継続研究をすすめています。

公開セミナーは総会記念シンポジウムで 2021 年度全国組合員意識調査に基づく記念企画《「組合員のくらしの変化」から 2030 年・新しい市民社会への課題を探る》を開催。「協同組合のアイデンティティ」、「大規模災害に備えて」など会員（個人・団体）と市民で考える場を開催しました。共催セミナーでは昨年に引き続き愛知県立大学、コープあいち・コープあいち労働組合・コープあいち 9 条の会・同 OB 9 条の会とのつながりを継続しています。

協同組合間協同は「愛知の協同組合間協同連絡会」の発足。全国協同組合等研究組織交流は第 3 回までの実行委員を担った全国 8 団体での情報交換会に参加。JCA 主催の第 5 回都道府県協同組合連携組織等 全国交流会議（11 月 18 日）や県域連携についてのブロック別情報交換会（近畿・東海・北陸/8 月 2 日）に参加し、つながりを確認してきました。

自然災害にそなえるテーマでは、セミナー準備を通して県単位にこれまでの行政や関連 NPO 法人、ボランティア組織とのつながりを再確認しています。また、「愛知県災害支援のためのボランティア等情報共有会議」の立ち上げに研究センターから加わり関係づくりが広がりました。

### 3) 第三の柱：関わる人のエンパワメント

4つの大学の授業を受託し大学生とのつながり、協同組合インターンシップ支援、名城大学ボランティア論をとおして受講学生が「難民食料支援ボランティア（発送作業）」に加わるなど、研究センターを通じた学生の社会参加が促進されています。また、大学授業では研究センターに関係する組織・個人に講師を引き受けていただき、各組織・個人の新しい実践の発見やつながり再確認の場にもなっています

生協組合員理事や職員による「学びと気づきの場」、対面開催の機会が増え、受講者同士の交流の場となっています。

### 4) 第四の柱：協同にかかわる情報の蓄積と社会発信

研究・調査活動の成果として、「地域と協同・研究誌（鶏頭）」2号、8月7日に開催した「平和と協同組合の役割」報告書を発行しました。

<そのほかの発行物>

- ◆鶏頭二号「新しい市民社会に向かって」（9月30日）
- ◆「市民協働によるまちづくり～東海から発信する新しい市民社会への途」（12月20日）
- ◆鶏頭三号「特集Ⅰ地域から広がる協同の芽、特集Ⅱ組合員のくらしの変化から新しい市民社会への課題を探る」（2023年1月20日、3月600冊増刷）



### 5) 会員組織

以上を通して、研究センターの意義や価値を市民、学生（大学）、組合員、行政、NPO 法人、任意組織や団体に発信することで組織強化をすすめましたが、入会は正会員 13 名（目標 20 名）、賛助会員 1 名（目標 40 名）、団体 0（目標 2）という結果です、

地域と協同の研究・実践を「ともにすすめる会員」を広げることが課題です。

## 3. 2023 年度の目標

2023 年度事業を通して、団体会員の組合員・職員・構成員や市民へ参加・入会をひろげます。

図書・定期刊行物等の情報の蓄積、オンライン等の環境整備をすすめます。

2030 年を見据えた地域と協同の研究センター事業の推進体制基盤（理事、事務局体制）の強化をすすめます。

## 第 6 期研究奨励助成中間報告

No. 1

申請区分：個人研究・共同研究（○印で選択）

### 研究代表者氏名

菅野 晶仁

### 研究課題名

多文化共生と協同組合のアイデンティティ 連続プログラムを活用した研究調査

### 研究の進捗状況

実施内容； 現状まで、連続プログラムのワークショップとして以下を実施いたしました。

2022/6/5 DAY1, 2022/7/2 DAY2, 2022/8/20 DAY3-1,

※2022/9/11 日本協同組合学会第 42 回秋季大会 2 日目プログラムにおける発表

2022/10/22 DAY3-2, 2022/12/4 DAY4&海外事例(特別編/パルシク), 2023/1/15 DAY5,

※2023/2/23 分科会：フィールドワークの実施検討会

■DAY1 では、アイデンティティ声明を構造化したうえで、社会・経済・文化における課題の捉え方や対応のアプローチの対比として IDGs/SDGs/ESD などを用いて対話を深め、参加者にとっての経済的・社会的・文化的なニーズと願い、課題を整理し、原則に照らし合わせることで導かれるアイデアについて話しました。海外の事例としてはイタリアの社会的協同組合と労働組合の協働に関する田中夏子先生のレポートをもとに、事業の持続性に影響を与える要因について議論しました。

■DAY2 では、「多文化である社会とは」「多文化共生のアイデンティティとは」という観点をもとに「多文化共生の共通のニーズと願い」を参加者の視点で考えることを通じて、共通のニーズと願いを導くときの課題や協同組合原則の理解を改めて深める着眼点について議論しました。また、DAY1 でアイデンティティ声明を構造化した内容の理解を深めるため、DEI&B (Diversity, Equity, Inclusion&Belonging) や共同・協同・協働などの言葉の違いや身近な事例について議論することで、多文化的視点での協同組合のアイデンティティ声明への理解を深め、「協同組合のアイデンティティ」が多文化社会の中で果たしうる役割について議論しました。

■DAY3-1 では、多文化的視点で協同組合原則の用語について実際の行動に照らして議論することで、参加者の言葉の解釈の違いや実際に行動する際の障壁、課題、取りうる行動のアイデアについて話しました。その上で、実際に事業を行うために多文化を前提とした協同組合を設立することを仮定した場合に考えるべきこと、「協同の本質と利点」を如何に活かすか、について議論しました。

■DAY3-2 では DAY3-1 に引き続き、参加者にとっての多文化共生における共通のニーズと願いに関する着眼点を整理するため、移住連の新型コロナ移民・難民支援口座における支援領域の分類を使いながら多文化の協同組合として議論する対象の絞り込みを行ったうえで、地域コミュニティへの関与、開発(福祉)的教育や事業を通じた開発的共生社会の実現などの観点を共有しながら事業としてのニーズと願いについて掘り下げ、「多文化社会における協同組合のアイデンティティ」について議論しました。

■上記のプログラム、および参加者が活動してきたことをもとに、日本協同組合学会第 42 回秋季大会にて発表を行っています。

■DAY4,5 では、DAY3 までを下地としてフィールドワークおよび実践対象について絞り込み議論や計画を深めるため、特別編として実際に多文化による/関わる事業運営をしているパルシクの西森さんによる事例紹介、および参加者による保見団地プロジェクトの事例、ラテンアメリカの連帯経済の書籍、センター発刊の書籍「市民協働によるまちづくり」などを紹介し合いながら、これからの進め方を議論しました。

特別編では、パルシク (PARCIC) 東京事務所事務局長の西森光子さんをお招きし、紛争地域 (元紛争地域) における女性協同組合と社会的企業の事例としてパレスチナガザ地区の女性酪農協同組合の取り組みとスリランカにおける社会的企業 Sari Connection の活動が紹介されました。また東京葛飾区にある海外ルーツの市民・在留外国人支援を目的としたコミュニティカフェ「みんかふえ」の活動や課題などについても話し合っています。

■今後の予定としては当初予定していた実施期間 2022 年 6 月～2023 年 6 月より延長した計画を立て直したうえで、フィールドワークおよび調査研究の続きを進める想定です。

※現時点では 2023 年 8 月～10 月までをめどに全工程を実施し、報告書をまとめる予定となります。

申請区分：個人研究・共同研究（○印で選択）

## 研究代表者氏名

津坂賢一

## 研究課題名

2030年の生活上のテーマの変化と生協の周辺事業の可能性 一友愛・協同の視点から一

## 研究の進捗状況

「研究の予定」に掲げた項目の進捗は以下の通りです。

1. 5つの生活上のテーマの想定を重ね合わせ2030年以降の生活の場で関連しあう姿・課題を探る  
(2022.8~2023.3)

- 1)各「白書」の内容を参照しつつ、以下の研究者または実践者を中心に文献を確保し課題の整理を進めた。
- 2)「5つの生活テーマ」の整理にあたっては以下のフレームワークを参照して実施した。
- 3)それぞれ立ち位置によるバイアスを受けやすいテーマ。「ポジショントーク」に留意。

参照:「あるべき姿」を構想する戦略的「問題発見の4P」

『問題発見プロフェッショナル「構想力と分析力」』(齋藤嘉則)

- ・Purpose そもそも何のために(大前提の「目的軸」をとらえ直す)
  - ・Position いったい「だれにとって」の問題なのか(「立場軸」を明らかにする)
  - ・Perspective 問題を俯瞰する(領域の拡がりを押さえる「空間軸」を考える)
  - ・Period 「どの時点」での問題とするのか(「時間軸」を明らかにする)
    - ①水:橋本淳司(水ジャーナリスト)、沖大幹(東京大)、岸本聡子(元シンクタンク研究員)
    - ②食べもの:フォーラム人間の食(味の素食の文化センター)、山極壽一(総合地球環境研究所)、鈴木宣弘(東京大)、山田正彦(元農林水産大臣)
    - ③エネルギー:飯田哲也(環境エネルギー政策研究所)、橘川武郎(国際大)、法政大学サステナビリティ研究センター、小澤祥司(環境ジャーナリスト)
    - ④テクノロジー:中島聡(元マイクロソフトエンジニア)伊藤穰一(ベンチャーキャピタリスト)、宇野常寛(批評家)
    - ⑤家族:本田由紀(東京大)、山田昌弘(中央大)、橋本健二(早稲田大)、山岸俊男(元北海道大)、藤森克彦(日本福祉大)ロビン・ダンバー(人類学)
- 4)有識者へのヒアリングは実施できなかった。今後の計画の中で行う。

(今後の計画)

2. アンケート調査、ヒアリング等を実施し、生協の組織、事業との関連、地域の中での立ち位置今後の計画などをつかむ(2023.4~8)

※コープみえでのヒアリング時、日本生協連が「2030 環境・サステナビリティ政策進捗調査」が実施されていることがわかった。計画しているアンケートをやめて、この調査結果を活用する。コープあいち森理事長より「紹介」をいただき4月24日日本生協連新良貴氏にレクチャーしていただくことになっている。

3. 変化に立ち向かう上で大切にしたい「生協らしさ」「友愛・協同」の視点を学ぶ(2023.9~)

4. 生協の周辺事業・関連事業に何ができるか、可能性を取りまとめる

## 研究代表者氏名

熊崎辰広

## 研究課題名

有機農業と協同組合

## 研究の進捗状況

・当初の課題としては、前回の奨励研究（買い物難民）の際、参考文献の原山浩介著「消費者の戦後史」の中の「消費者の有機農業運動史」に興味をもち、この論文と原山氏の同テーマでの生協総研の研究発表を聞き、これらの内容について分析を一つの柱にすることにしました。

・その際、あらためて「有機農業」とは何か、かなり観念的で間違った理解でしかないのではないか、ということで改めて有機農業について学ぶことにしました。そのことを、考えさせられたのは、筑波書房ブックレットの⑨「有機農業と米づくり」（民間稲作研究所 稲葉光圀著）の次の文章です。「1952（昭和27）年、大原農学研究所が湛水管理法によるヒエの防除法を発表した時、同時に除草剤〔2・4・5-T〕による防除法が発表され、後者がその後の雑草防除技術の中心技術になったことは極めて象徴的でした。環境共生型の除草技術の技術は推進されず後日ダイオキシン汚染を引き起こすこととなる除草剤の開発が官業一体ですすめられることになったのです。」つまり、1952年の時点で環境共生型への方向に進んでおれば、有機農業の選択はもう少し自然に、広がりもできていたのではないかと。また稲葉氏は彼の稲作の実践から、経費としての農薬や化学肥料を使わない米作りでは、生産コストが下がることで、利益を生み出していることを証明しています。「有機農業」だから高くても当然、という常識についても検討の余地がありそうです。有機農業の技術的な側面については、あまり深入りしないで、有機農業そのものの意義と実践を分析し、それが本来の農業ではないか、という見通しを探ります。

・レイチェル・カーソンの「沈黙の春」の影響から、日本でも1970年代に有機農業研究会が発足し、その後の日本の有機農業を推進する母体となりました。その意味で、日本における運動としての有機農業の歴史を、賀川豊彦と交流のあった一楽輝雄の思想と実践から学びたい。これと、原山氏の論稿も比較しながら、なぜ日本では有機農業のあまり広がりを見せていない原因を考えたい。また、協同組合の役割についても考えてみたい。

・前回の奨励研究である、移動販売については、一つは食品のアクセス問題として考える必要があり、都市と農村を含む一つの「地域圏フードシステム」の理念や実践が模索されていますが、フランスや韓国等では、その政策がすすめられ、例えば学校給食などの公共調達に置ける有機農産物の割合が、日本とくらべかなり高い割合になっています。特にフランスではアグロエコロジーが政策の理念としてあります。そのような政策に学びながら、日本での学校給食にける有機食材の普及と、それと繋がる有機農業の可能性を、千葉県いすみ市等すでに実践されているいくつかの自治体の内容に学びながら検討したい

と思います。

・有機農業のあり方を学ぶとき、やはりその先にはアグロエコロジーがあり、このアグロエコロジーの実践についても、学ぶことが出来ればと思います。

申請区分：個人研究・**共同研究**（○印で選択）

**研究代表者氏名**

古田豊彦

**研究課題名**

「協同組合のアイデンティティ」一川上の協同水系コミュニティ・境界領域の協同のまちづくり

**研究の進捗状況**

第1回研究会 2022/8/8  
資料収集、調査対象の抽出

第2回研究会 2022/9/12  
資料収集、調査対象の抽出

第3回研究会 2022/10/17  
第1次地域調査の計画

第4回研究会 2022/11/14  
第1次地域調査の計画

第5回研究会 2022/11/18  
第1次地域調査 岩村 前回調査の確認

第6回研究会 2023/1/16  
研究報告書概要の検討

第7回研究会 2023/2/13  
第2次地域調査の計画

第8回研究会 2023/3/13  
第2次地域調査の計画、中間報告の確認

以上



## 第二分冊参考資料

### 地域と協同の研究センター事務局員年報

#### 野田幸男

(居住地：名古屋市守山区)

##### 1. 受託業務概要

- (1) 会計管理
- (2) 会員管理
- (3) 寄付講義：名古屋市立大学における寄付講義の授業準備

##### 2. 活動報告

###### (1) 会計管理

正確な会計処理を心掛け、活動を会計面から支えることに努めました。

###### (2) 会員管理

会員の入会・退会管理、会費の請求と入金確認、会員住所・所属などの状況整備など細かな事務処理が求められ、間違いの無いように処理しました。ニュースの発送については希望者へのデータによる配信を始めました。

###### (3) 寄付講義

1期3年の講義は3期目を終え今年度で終了となりました。9年間に渡り本講義が目指す「地域の人と人のつながり」の大切さを生協、農協、社会福祉法人、NPO、労協など第一線で活躍していただいているみなさんを講師として講義をしていただきました。学生のかなには自身もボランティア活動に参加したり、今後の研究課題としたいとのレポートも散見され、将来の進路に影響を与える講義でもありました。この講義は今年度で終了しますが、9年間の成果を検証し今後に生かす検討を進めることができればと思います。

##### 3. 2023年度の目標

- (1) 会計管理・・・事業活動の内容が広がっている中で、NPO法人会計基準に添った運用に心掛け、特に予算に基づいた適正な費用の執行に努めます。
- (2) 会員管理・・・会費については遅延者へのお知らせを定期的に行うとともに、引き続き住所変更・所属変更等会員情報の整理に努めます。  
ニュースの発送について、データでの発信が始まったことによる仕訳を正確に行うよう心掛けます。

#### 伊藤小友美

(居住地：愛知県岡崎市)

##### 1. 受託業務概要

- 三河地域懇談会事務局
- 学びと気づきの場（協同の未来塾・共同購入事業マイスターコース・組合員理事ゼミナール）事務

局

## 2. 活動報告

### ○三河地域懇談会

世話人会はオンラインも併用して10回開催し、三河地域懇談会の活動について検討・協議を行うとともに、世話人会としての学習に取り組んできました。毎回、世話人の近況報告を行い、情報交換もしました。協同組合のアイデンティティについては、一昨年度のICA世界大会参加以来、大切なテーマとして学びと交流を続けています。また、コロナ禍でこの間実施できなかった三河を楽しく歩く活動・フィールドワーク（結カフェ・のだ味噌・新城軽トラ市・コープあいち小規模多機能ホーム見学等）にも取り組むことができ、その準備・運営にあたりました。煮味噌研究会を開催し、調理・試食を行えたことは大きな成果となりました。災害に備えるための学びを重ね、その準備にあたりました。世話人会は、常に世話人のみなさんと相談してすすめています。食と健康、粹な老い支度、協同組合についての話し合いを継続しました。「豊橋生協会館へ寄らまいかん」は7月開催予定で、準備を始めました。

東海交流フォーラムでの報告は、世話人のみなさんで分担し、直前にやなマルシェへ見学も行き、内容を深めることができました。豊橋生協会館でのオンライン運営は、3年目にしてようやくスムーズに行うことができました。経験を重ねることが何よりの力となることを実感しました。

### ○学びと気づきの場

協同の未来塾・共同購入事業マイスターコース・組合員理事ゼミナールともに、コロナ禍で3生協集まっての開催が難しく、一部オンライン参加の方があつたり、単協でオンライン参加があつたり様々な形態での運営を行いました。それぞれに重要な学びの場であり、単協を越えての交流が参加者の大きなモチベーションにつながっていると思われまふ。協同の未来・共同購入事業マイスターコースについては、修了式を一堂に会して開催することができ、修了者のみなさんのおひとりおひとりのスピーチを聞くことができうれしく思いました。円滑な場の運営に努力しました。

## 3. 2023年度の目標

ウィズコロナの時代のさまざまな協働活動について、引き続き研鑽を積み、努力します。協同組合学会の開催にあたり、事務局として微力を尽くします。

地域と協同の研究センターで取り組む多様な課題・情報をコープあいちでも共有し、共に活動する人を増やすようにします。地域の人と人、各種団体とのつながりづくり、会員同士のネットワークが広がるように努めます。小さなことの積み重ねを大切に、ていねいに日々の業務にあたります。

## 井貝 順子

(居住地：岐阜県瑞浪市)

### 1. 受託業務概要

- ①「岐阜地域懇談会」活動の事業計画立案と実行
- ②研究センターNEWS 編集・発行の業務
- ③発表論文の把握・データベースづくり

- ④その他（研究センターの活動を地域に広げる）

## 2. 活動報告

- ① 中野方町のまちづくりを学んできました。フォーラムでの報告や、世話人会メンバーの地域での活動の中で、中野方の取り組みをしらせることができました。地域懇談会での訪問・学習を通し、生き活きと活動されている様子から刺激をいただき、それが地域での世話人会メンバーの活動に影響を与えています。
- また、話し合いの中身が、岐阜に引っ越して来られた方の、地域への関心から、地域の文化・歴史についても触れられることが多くなりました。今のこの状況だけでなく、地域のかつての様子についても考えあうことができるようになりました。今のこの地域ではなく、広い視野に立って地域のことを考えられるようになった気がします。また、懇談会の中で、生協の業務についての話も出るようになりました。懇談会の内容をもっとコープぎふの中に伝えることが必要だと感じます。
- ② 「〇〇の話はよかったね、読み返したよ」「ウクライナのことをよくわかった」という声を、何度も聞きました。研究センターNEWSが、お役に立っていることがわかりました。
- ④ 私の町に住み続けるために、このままではいけない何かをしたいという気持ちは、住民の誰もが持っている・・・ということに気が付きました。自分の身の回りから、やれることを始めようと考えました。というのは、22年の報告に書いたものです。23年4月から高齢者の居場所づくりー毎週火曜日の通所型サービスーが始まりました。「こんなことを始めます、協力してください」との呼びかけに集まった地域の同世代の方たちから、「この場所でこんなことをしたい！」という声が、話し合いの中でつぎつぎとあがってきました。聴いていてびっくりした私は、この文章をみつけて、再びびっくりでした。本当に、住民の誰もが持っていると思っていたならびっくりはしないはずです。侮ってはいけない、私につながる人たちのパワー、火曜日のサービスがあるたびにいろいろな発見があります。

## 3. 2023年度の目標

- ①中野方地区 「ささえあいの家」との交流をすすめます。パワーの源をさぐります。
- ②書庫の整理をすすめます。
- ③稲津いなほ（通所型サービス）で、起きていることについて考え、記録します。

## 熊崎辰広

居住地（岐阜市）

### 1. 受託業務概要

- ①「地域福祉を支える市民協同」領域に関する事業計画立案と実行
- ②「岐阜地域懇談会」活動の事業計画立案と実行
- ③「農業」「医療」領域にかかわる調査と情報提供

## 2. 活動報告

①に関して：昨年の総会終了後に新しく京都の上掛利博先生（専攻：社会政策・福祉経済）に世話人として参加していただき、論議に幅と深みが増しました。事例研究としての各務原八木山地区「ささえあいの家」についての、一定の総括的な論議をふまえながら、あたらしく三重の「ガーデン大山田」を対象として、現地見学等を行い、瀬戸の MtoM の活動もふくめ、地域福祉と市民協定の視点で比較研究を進めたいと思います。

②に関して：引き続き、岐阜地域懇談会では、井貝さんと共に恵那市中野方を対象として訪問活動など行ってきました。予定としては、中野方の事例についての一定のまとめの文章を作成して、報告集の作成などを考えています。「棚田保全」「木の駅プロジェクトと地域通貨」「おきもり」などの福祉ボランティアの活動など、特徴的な活動があります。

③に関して：一つは、前年度の報告した、「協同集会」分科会の企画のうち、「学校給食をオーガニックに」と「福祉医療ネットワークとひなたぼっこ」では、報告内容を文章化して報告集を作成し紹介しています。

もう一つは、研究センター第 6 期奨励研究助成に応募し「有機農業と協同組合」という、やや漠然としてテーマを設定しましたが、この国の「農」の現状を総括的に、まとめてみたいという思いで進めています。有機農業についても私自身のなかで、誤解や偏見があり、有機農業とはなにかを踏まえつつ、地域のなかでの拡大のために、協同組合（農協の含め）の役割などを考えてみたいということを進めています。

さらに「友愛協同セミナー」では、引き続き中世からの「講」の歴史に焦点をあて、現状マイクロファイナンスの視覚から探求しています。アジア・アフリカや中国、朝鮮半島にも、同じようなファイナンスの仕組みがあり、日本的だけではない講の、歴史分析を進めています。

## 3. 2023 年度の目標

①にかんしては、愛知・岐阜・三重の事例研究の比較分析などをすすめ、報告書ないしブックレットの作成を目指します。

②にかんしても、これまでの（第 2 集の報告書発行以降）の活動について岐阜地域懇談会のまとめの報告集の作成を目指します。

③奨励研究をすすめ、論文にまとめます。その際、読んで価値のあるものになりたいと思います。

また、「友愛協同セミナー」では、これも協同組合の源流としての「講」の歴史を、さらに深め、これについても論文にまとめることを目指します。

## 神田 すみれ

居住地（市・区・町・村まで）愛知県瀬戸市

### 1. 受託業務概要

名古屋市瑞穂区民と外国人とのコミュニティ形成に向けてセミナーの開催。オンライン配信。

3 年目の事業受託、最終年。今年度は区民と地域リソースを結びつけ、

(1) 外国人住民とのコミュニティ形成に向けて地域での取り組みを紹介

(2) 外国人住民が地域と接点を持ち、共に地域をつくるという視点を持つを目的にセミナーを開催。

## 2. 活動報告

瑞穂区役所、愛知工科大学外国語学校、日本ガイシ株式会社インターナショナルハウスを訪問。

愛知工科大学外国語学校留学生 3 名と打ち合わせ。

グランパス ランゲラック選手へのビデオメッセージ依頼、質問項目と回答を作成。

名古屋市国際交流課勤務職員（ウクライナ避難民 タチアナさん）へのビデオメッセージの依頼、質問項目と回答を作成。瑞穂区役所で動画撮影。

動画編集、文字起こし（ウクライナ避難民へ依頼）、翻訳、字幕作成。

広報のためのチラシデータを作成、印刷、広報。

YouTube 配信業者手配、依頼（2022 年度同様）。

当日の司会進行。第一部講演。

第二部ディスカッション進行。

YouTube ライブ配信。

YouTube アーカイブ配信。（2023 年 3 月 31 日終了。視聴回数 394 回）

事業受託 3 年目、最終年。この 3 年間で醸成してきた区民の意識や関心をベースに、新たに瑞穂区にある企業や学校、瑞穂区で学び生活をする留学生と地域との繋がりを広げることができた。

## 3. 2023 年度の目標

瑞穂区からの受託業務は 2022 年度で終了したが、行政と共に取り組む関係作りを今後も継続していく。

## 水谷光由

（居住地：岐阜県海津市）

### 1. 受託業務概要

- ① 3 つの学びと気づきの場（理事ゼミナール、マイスター、未来塾）の準備、運営企画立案と実行
- ② 「職員の仕事を考える」研究フォーラム活動の企画立案と実行
- ③ 「協同組合における協同組合労働」に関する調査研究

### 2. 活動報告

3 つの学びについては、コロナ禍の中、集まれるときはリアルで、できないときはオンラインやビデオ学習を活用し、開催してきました。オンラインでの講義やグループワークに、受講生の皆さんも慣れてきて、スムーズにすすめられるようになってきましたが、実際に集まった研修の方が参加者との共有感もあり、相互の気づき合い、学び合いが大きくなります。

コロナ過で、さまざまな条件がありながらも、各生協の企画委員さん、世話人さんの協力のもと、

研修（学び合いと気づきの場）を継続して創って行くことができました。

- ・マイスターコース

第14期として、2022年7月に開講し、全7回開催され、2023年2月に修了しました。

妹尾成幸さん（コープみえ）を座長に、3生協の企画委員さん9名で運営され、各回の進行をすすめていただきました。

3生協及びトランコムさん、アシストさんから参加いただき、26名の修了者になりました

- ・協同の未来塾

第8期として、2022年6月に開講し全10回開催され、2023年3月に修了しました。

塾長：八木憲一郎さん、副塾長：向井清史先生、企画・推進委員長：多村幸司さん（コープぎふ）、企画・推進委員：8名で運営され、各回の進行をすすめていただきました。

3生協及び大学生協・事業連合から参加いただき、18名の修了者になりました。

- ・組合員理事ゼミナール

第8期として、2022年10月に開講し、次年度に修了予定です。今期は3月までに5回開催されました。

渡邊 秀さん（コープあいち）を世話人会座長として、3生協より10名（途中交代あり）の世話人さんで運営され、各回の進行をすすめていただきました。

17名の組合員理事さんが受講中です。

### 3. 2023年度の目標

3つの学びについては、各生協の企画委員の皆さんと調整し、引き続き、4生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ、大学生協）での協同の学びの場（共同購入マイスターコース、協同の未来塾、理事ゼミナール）を開催できるようすすめます。

## 堤 英祐

居住地：名古屋市名東区

### 1. 受託業務概要

- ①「食と農」領域に関わる企画立案及び情報提供
- ②「環境」領域にかかる情報提供と調査・研究活動等の支援
- ③「くらしと生産をつなぐものづくり」領域に関わる企画立案および情報提供

### 2. 活動報告

- ・生協の生産と消費をつなぐ産直活動への支援

産地開発、南知多の生産者とコープあいち大府センター、大高インター店をつないでの供給活動を支援

地域循環、環境保全型農業への支援

- ・コープあいち環境政策推進委員会に参加

- ・研究フォーラム食と農世話人会の開催、6/17、9/22、12/6の3回開催することができました

### 3. 2023 年度の目標

気候変動、新型コロナウイルス禍、ウクライナ危機による食と農の危機は深刻さを増しています。元々自給率 38%の日本に於いては命に関わる問題でもあります。

持続可能な農と食のあり方、地域の農業、地域のくらしとの連携、様々な課題を実践事例から学び、地域と協同の研究センターでの食と農の議論から解決への道筋を考え合います。

## 大島三津夫

(居住地：愛知県犬山市)

### 1. 受託業務概要

地域と協同の研究センターからの受託業務は以下の通りです。

- ① 理事会、常任理事会の議事録作成
- ② 地域と協同の研究センターNEWS の編集・発送作業
- ③ その他庶務全般（会計以外）の業務

### 2. 活動報告

2022 年度受託業務として取り組んできた内容は以下の通りです。

- ① 理事会・常任理事会の議事録を事務局として作成してきました。
- ② 地域と協同の研究センターNEWS の編集・発送作業を行ってきました。

編集・発送作業の内容は以下の通りです。

#### 2ヶ月前～1ヶ月前くらい

- ・NEWS の記事内容についての提案⇒各号発行 2 ヶ月前に記事編集の考え方を整理
- ・事務局会議にて検討・確定
- ・原稿をお願いする場合は、事務局会議で確認後、ご本人に連絡しお願いします。

#### 1ヶ月前～発送当日

- ・最終発行する月の事務局会議で NEWS の記事内容を再確認し、原稿をお願いしています。メ切日までに届くように段取りを確認します。
- ・メ切日までに届いた原稿を、NEWS の誌面で編集し、専務理事、事務局長が点検し補正・確認されたものを原稿として確定します。
- ・確定した NEWS の原稿を、執筆者の校正後に、発送の前日に印刷します。
- ・NEWS を会員のみなさまに発送します。2022 年度は NEWS をデータファイルでとの要望もあり、準備をすすめてきました。

- ③その他庶務に関わり必要な業務を行いました。

### 3. 2023 年度の目標

特に地域と協同の研究センターNEWS は、研究センターが取り組んでいる活動について、会員が定期的に知る情報源であるとともに、会員の関心事・考えたいこと等情報をつなげる媒体と考え、編集・発送にたずさわっています。さらに多くの皆さまの関心事・情報をつなげ、一人でも多くのみなさまの声を NEWS で掲載させていただくことを目標にしています。会員のみなさま、伝えたいこと、ぜひ事務局にお届けください。また原稿をお願いする場合がありますので、ご協力いただけますようお願いいたします。

## 第23回通常総会議案書【第二分冊】

総会開催日	2023年5月20日
発行日	2023年5月8日
発行所(者)	特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 鈴木稔彦